Kobe City University of Foreign Studies
神戸市外国語大学

Graduate Prospectus

大学院 入学案内2026

英語学専攻　ロシア語学専攻　中国語学専攻　イスパニア語学専攻　国際関係学専攻　日本アジア言語文化専攻　英語教育学専攻　文化交流専攻

学長 挨拶　Message from the President

学長 President **田中 悟**　Satoru TANAKA

世界は、容易に答えを出すことのできない問いで溢れています。世界中の多くの人々が、こうした問いをめぐって日々格闘しながら研究を行ってきました。そうした研究の成果は、現在私たちが利用することのできる知識の集積を形成しています。一方で、現代の世界では知識が高度化・多様化した結果、こうした知識へのアクセスには一定の基盤を身につけることが必要とされています。それは、知識へのアクセスに必要な外国語能力であり、専門分野ごとに必要とされる「ものの見方」や分析の手法であったりします。

大学院は、皆さんお一人お一人が関心を持つ問いを深く学んでいただく場です。大学院での学修を有意義なものにするためには、先人たちが蓄積してきた研究成果を学び、知識へのアクセスに必要な基盤を身につけることが必要不可欠です。また、自分自身の問いに対して、様々な角度から深く考え、答えを探すために試行錯誤を重ねることも重要です。皆さんには、是非これらの点を念頭に置きながら学修を進められることを期待しています。

大学院での皆さんの学びの成果は、多くの場合、博士論文や修士論文（あるいは課題研究論文）の形で結実されることになります。大学院での皆さんの学修成果には、各自のテーマに関連した知識の集積に対して、皆さんご自身の「プラスアルファ」を付け加えることが求められます。これは決して容易な道ではありませんが、大学院での学修を通じて、自分自身の問いに対して自らの答えを探す旅に出ていただきたいと思います。教職員一同、そうした皆さんの活動を応援しています。

研究科長 挨拶　Message from the Dean

研究科長 Dean **金子 百合子**　Yuriko KANEKO

大学院で学ぶということは、研究者の第一歩を踏み出すことです。あらゆる研究のはじまりは「謎」です。研究の目的はその謎を解明することです。あるいは、すっかり解明出来ないとしても、少なくとも謎の解明に確実に近づくことです。世の中で十分に明らかになっていない事象に光を当て、新しい知識で、新しい視点で、世界をより良く豊かにしていくことが研究者には求められます。そうした先人の研究の積み重ねで人間社会は発展してきました。皆さんはそのバトンを受け継ぎ、大学院から本格的に研究に着手します。「謎」という字に「迷う」が入っているように、研究に困迷はつきものです。大方の研究者は強い探究心と博学篤志をもってそれを乗り越えてきました。1つの問いにも多様な視座からのアプローチが可能です。先学、後学、教員、学生の垣根無く、学問を志す同志として、時に互いに問題を共有し合い、議論することで、自分の研究に役立つ観点が得られることは少なくありません。そしてそのような研究者コミュニティは、皆さんの周囲だけでも、日本だけでもなく、世界中に存在します。大学院で研究を志したその日から皆さんは大きな世界の研究者コミュニティの一員です。恐れずに問いかけ、意見を交わし、他者の知見と経験を自分の研究を昇華させる機会にしてください。研究成果は、自身の学問的問いを解消するためのものであると同時に、世界の知識をアップデートする社会的意義を持つものです。そのためには、自分の殻に閉じこもらず、積極的に行動する力が求められます。皆さんが神戸市外国語大学大学院で行う研究活動が知的好奇心をくすぐる、実り多きものであることを祈っています。

沿 革 History

名　称　神戸市外国語大学大学院　外国語学研究科

位　置　神戸市西区学園東町９丁目１

沿　革　1967 年　大学院外国語学研究科修士課程を設置（英語学、ロシア語学、中国語学、イスパニア語学の４専攻）

1986 年　神戸研究学園都市の現学舎に全学移転

1991 年　外国語学研究科修士課程に国際関係学専攻及び日本語日本文化専攻を増設

1996 年　外国語学研究科博士課程文化交流専攻を設置

1999 年　外国語学研究科修士課程日本語日本文化専攻を日本アジア言語文化専攻に名称変更

2004 年　外国語学研究科修士課程に英語教育学専攻を増設

2010 年　東京外国語大学との合同セミナーを開始

2015 年　外国語学研究科修士課程に新たな履修コース（課題研究コース）を設置

目次 Contents

01 学長　挨拶 Message from the President
研究科長　挨拶 Message from the Dean

03 大学院教育における理念
Educational Philosophy
大学院ディプロマポリシー
Diploma Policy

04 修士課程 Master's Program
- **04** 概要 Program Outline
- **06** ダブル・マスター制度
Double Master's Degree
- **07** 英語学専攻 English Studies
- **09** ロシア語学専攻 Russian Studies
- **10** 中国語学専攻 Chinese Studies
- **12** イスパニア語学専攻 Spanish Studies
- **14** 国際関係学専攻 International Relations
- **17** 日本アジア言語文化専攻
Japanese and Asian Languages and Cultures
- **18** 英語教育学専攻
English Language Education and Research

19 博士課程 Doctoral Program
- **19** 概要 Program Outline
- **20** 文化交流専攻 Cross-Cultural Interaction

23 修了生メッセージ Message

24 主な就職先・修了後の進路
Career Path after Graduation

25 研究生・外国人研究生・研修員・特別研究学生
Research Students・Int'l Research Students・
Graduate Trainees・Special Research Students

27 研究支援 Research Support

29 入学金・授業料 Fees

30 奨学金 Scholarships

31 入学試験 Admission Examination
- **31** 2026 年度入試日程
Admission Exam Schedule for 2026
- **32** 修士課程 入試内容
Master's Program Examination Contents
修士課程 社会人特別選抜
Special Selection for Working People
博士課程 入試内容
Doctoral Program Examination Contents

32 長期履修学生制度
Registration Period Extension System

33 施設案内 Facilities

35 アクセス・お問い合わせ Access･Inquiry

大学院教育における理念

Educational Philosophy

人文社会科学の最先端をリードする研究者の養成

To Cultivate Researcherts Who Are at the Forefront of the Arts and Social Sciences

幅広い国際感覚と高い外国語運用能力を備えた人材の養成

To Foster Human Resources with an Extended Range of International Perspectives and Superior Language Proficiency

社会人に対する高度な専門教育の提供

To Provide Advanced Professional Education for Adult Learners

世界に開かれた大学院教育と国際的な学術交流の促進

To Promote Graduate Educatiotn Open to the World and International Academic Exchange

大学院ディプロマポリシー

Diploma Policy

【英語学専攻】

英語の高度な運用能力に加え、各専門分野に関する幅広い学術的知見を身につけている。
語学領域：言語研究の方法を身につけ、言語現象を的確に分析することができる。
文学領域：文学テキストならびにその社会・文化・歴史的コンテキストについて批判的に論じることができる。
通訳翻訳学領域：通訳翻訳の実践力を身につけ、訳出を理論的に分析することができる。

【ロシア語学専攻】

高度なロシア語運用能力と幅広い教養、そしてロシアに関する高い専門知識を身につけ、各自の研究分野において先進的、かつ独創的な研究を行い、その研究成果を明快な論旨で論文にまとめることができる。あるいは、幅広い教養や専門知識に裏打ちされた高度な国際感覚を持ち、国際社会の動向に機敏に対応することができる。

【中国語学専攻】

高度な中国語運用能力と中国語圏の言語・文学・文化・社会に関する専門的知識を身につけるとともに、それらを用いて研究対象を客観的に分析・考察し、その成果を論文等にすることができる。また、多様な中国語圏諸地域に対する継続的な観察と洞察に基づいて、それらの地域と日本との間の相互理解に寄与することができる。

【イスパニア語学専攻】

高度なイスパニア語運用能力とともに、イスパニア語およびイスパニア語圏に関する研究をとおして深い異文化理解を基礎とした広範な学術的知見を身につけ、専門領域および周辺領域を含めた幅広い視野をもって各自の問題に取り組むことができる。またその研究能力を生かして教育研究活動や専門的な職業に従事することができる。

【国際関係学専攻】

法律・政治、経済・経営、文化の３領域における高度な専門性を身につけ、国際社会の問題について専攻領域の学術的知見に基づいて多面的・総合的に理解・分析することができる。その研究成果を論理的・体系的に整理し、論文や課題研究などの形で発表することができる。

【日本アジア言語文化専攻】

日本およびその周辺をとりまくアジア地域における言語あるいは文化に関する広範な背景知識を身につけ、専門的な手法により的確なデータ収集や理論的分析を行うことができる。幅広い人文科学あるいは社会科学的教養を獲得し、高度かつ多角的な視野から問題を掘り下げ、個別のテーマに対する深い理解を得ることができる。

【英語教育学専攻】

英語教育に関する観念及び学習者理解を対話的に深め、教育理論や第二言語習得理論に裏打ちされた英語教育の実践を、時代のニーズに合った形で行うことができる。また、プロの英語教師として、自らの英語教育の理解や実践を常に批判的、内省的に分析できる姿勢と視点を養い、英語教育者として自律的に成長することができる。

【文化交流専攻】

専門分野における高度な専門知識と優れた研究能力を有するとともに、従来の学問領域の枠組みにとらわれることなく、学際的、領域横断的な視点から新たな問題を発見し、その問題を独創的、創造的に解決しうるような柔軟で自立した思考を行うことができる。また、その成果を明快な論旨で論文にまとめることができる。

概要
Program Outline

本学修士課程は、英語学専攻、ロシア語学専攻、中国語学専攻、イスパニア語学専攻、国際関係学専攻、日本アジア言語文化専攻、英語教育学専攻の７専攻に分けられています。英語教育学専攻を除く６専攻には、研究者の養成を目指す論文コースと高度な職業人の養成を目指す課題研究コースがあります。

英語教育学専攻は、小・中・高等学校等の現職教員を対象とした、高度な専門職業人としての英語教員の養成を目指しています。

指導教員の指導に基づき、自立的かつ創造的な研究活動を進め、２年間の課程を修了し修士論文または課題研究の審査に合格した者には、修士の学位が授与されます。

In the Master's Program, fields of study include English Studies, Russian Studies, Chinese Studies, Spanish Studies, International Relations, and Japanese and Asian Languages and Cultures. The English Language Education and Research Course, established in 2004, targets incumbent teachers.

In the Master's Program, students will conduct their research independently and creatively, based on the advice of their professors. Master's degrees will be given to those who finish the two-year program and have their Master's thesis or research projects accepted.

修士課程の目的 Purpose of Master's Program

幅広い視野と柔軟な思考を持ち、各々の学問領域の広く深い学術的知見を背景に、新たな知の創出に向けた問題発見・解決能力を有する専門研究者を育成すること、および同様の学術的知見とともに、異文化理解の能力を身に着け、国際社会の持続可能な発展に寄与することのできる高度職業人を育成することを目的とする。

修業年限 Course Term

２年
※１　長期履修学生制度を設けています。
※２　英語教育学専攻については、長期履修制度及び短期履修制度を設けています。

Two Years
※１　Registration Period Extension System is available.
※２　Short and long-term course systems are available for English Language Education and Research.

入学定員 Enrollment Quota

専　攻　Major	定員　Capacity
英語学専攻　English Studies	10
ロシア語学専攻　Russian Studies	5
中国語学専攻　Chinese Studies	5
イスパニア語学専攻　Spanish Studies	5
国際関係学専攻　International Relations	10
日本アジア言語文化専攻　Japanese and Asian Languages and Cultures	12
英語教育学専攻　English Language Education and Research	10
計 Total	57

学 位 Degree

専　攻　Major	学　位 Degree	学位に付記する専攻分野の名称 Major Appended to the Degree
英語学専攻　English Studies ロシア語学専攻　Russian Studies 中国語学専攻　Chinese Studies イスパニア語学専攻　Spanish Studies	修　士 Master	文　学 Literature
国際関係学専攻　International Relations		国際関係学 International Relations
日本アジア言語文化専攻 Japanese and Asian Languages and Cultures		文　学 Literature
英語教育学専攻 English Language Education and Research		英語教育学 English Language Education

履修コースと課程修了要件 Type of Course and Program Completion Requirements

論文コース Master's Program (Thesis)

論文コースは、本学大学院教育の理念の１つである「人文社会科学の最先端をリードする研究者の養成」を目標とし、広く深い学術的知見の獲得と問題発見・解決能力の育成を目指した指導体制が敷かれています。本コースの学生は、本学修士課程に２年以上在学し、所定の授業科目から 30 単位以上を取得し、修士論文の提出と、その審査及び最終試験に合格することを要します。将来新たな問題の発見と解決が行える自立した研究者を目指す方を対象としています。

修士論文においては、研究テーマの妥当性、先行研究との関連性、当該分野への学術的な貢献度、論理展開の透徹性、方法論の客観性・一貫性などを中心に総合的に評価します。

Based on the graduate school education philosophy of cultivating "researchers who are at the forefront of the arts and social sciences", this course offers an educational system where students who wish to become scholars or teachers can give consideration to a specific topic and advance their studies.

A candidate for the Master's degree has to study at the university for more than two years, obtaining 30 credits and over from the determined class subjects as well as submitting a Master's thesis. Then, he or she is required to pass the thesis review and the final test.

The master's thesis will be evaluated comprehensively based on the appropriateness of the research topic, its relevance to previous scholarship, its academic contribution to the field, the clarity of its logical development, and the objectivity and consistency of its methodology.

英語教育学専攻 English Language Education and Research

所定の単位の取得と修士論文の提出を前提とします。修士論文においては、研究の種類（研究論文、実践研究論文、カリキュラム・教材開発、ポートフォリオ）に応じた要件をもとに総合的に評価します。将来、新たな問題の発見と解決が行え、自律的に成長を志向する英語教師として活躍が期待される修士論文提出者に対し学位を授与します。

課題研究コース Master's Program (Coursework + Research Project; Non-Thesis)

課題研究コースは、本学大学院教育の理念の１つである「幅広い国際感覚と高い外国語運用能力を備えた人材の養成」を目標とし、当該分野の学術的動向の把握、広範な学識の習得、ないし深い異文化理解を目指した指導体制が敷かれています。本コースの学生は、本学修士課程に２年以上在学し、所定の授業科目から 30 単位以上を取得し、課題研究の提出と、その審査及び最終試験に合格することを要します。将来国際社会において対外的なニーズに即応できる的確な判断力と柔軟に行動できる国際感覚をもった社会人を目指す方を対象としています。

課題研究の評価は学術報告、口頭発表、あるいは修了試験のいずれかによります。審査方法は担当指導教員および各専攻によって決定されます。課題研究においては、研究テーマの妥当性、先行研究の渉猟とその十分な理解、方法論の客観性・一貫性などを中心に総合的に評価します。

Based on the graduate school education philosophy of fostering "human resources with an extended range of international perspectives and superior language proficiency", this course offers an opportunity for students who wish to continue studies in a particular field in order to become competent and flexible professionals.

A candidate for the Master's degree has to study at the university for more than two years, obtaining 30 credits and over from the determined class subjects as well as passing the review of a Research Project.

The research project will be evaluated based on an academic report, an oral presentation, or a final examination. The evaluation method will be determined by the supervising professor and the department. The project will be evaluated comprehensively based on the appropriateness of the research topic, the depth of research and understanding of previous scholarship, and the objectivity and consistency of the methodology.

教諭専修免許 Specialized Teacher's Certificate

各語学および英語教育学専攻においては、所定の単位を取得すれば、専攻する言語の中学、高等学校の教諭専修免許状が取得できます。

By earning designated credits in the language courses below, students can obtain a teacher's certificate.

専　攻　Major	認定を受けた免許状の種類 Type of Certificate 中学校教諭専修免許状／高等学校教諭専修免許状 Specialized Teacher's Certificate for Junior High or High School
英語学専攻　English Studies	英　語　English
英語教育学専攻　English Language Education and Research	
ロシア語学専攻　Russian Studies	ロシア語　Russian
中国語学専攻　Chinese Studies	中国語　Chinese
イスパニア語学専攻　Spanish Studies	イスパニア語　Spanish

ダブル・マスター制度
Double Master's Degree

本学では、以下の大学との間で、双方の修士学位を取得できるダブル・マスターの制度があります。
・天津外国語大学（中国）・モナッシュ大学（オーストラリア）
Double Master's degree programs are offered in cooperation with the following universities:
・Tianjin Foreign Studies University (China) ・Monash University (Australia)

モナッシュ大学大学院（オーストラリア）と本学の２つの修士号を取得

2015 年 4 月より本学大学院とモナッシュ大学（オーストラリア）の大学院との間でダブル・マスタープログラムを開始しました。対象となる専攻は、大学院修士課程･英語学専攻の「通訳翻訳学領域」です。

本学大学院の修士課程（課題研究コース）に入学後、1 年目はモナッシュ大学の大学院で、2 年目は本学大学院で学び、2 年間の課程を修了することにより、本学大学院とモナッシュ大学大学院の 2 つの修士号の学位を取得できます。詳細については本プログラムの Web ページを参照してください。（本学が選考した参加者の留学許可は、モナッシュ大学が最終決定します。）

詳細はこちら

KCUFS offers a double Master's degree program with Monash University (Australia) in the field of interpretation and translation. In this program, students spend the first year at Monash University and the second year at KCUFS, and are awarded Master's degrees from both after completion.

履修学生からのメッセージ

Message

Hello, future peers! If you're looking for an opportunity to gain insights into interpreting and translation studies while developing practical skills for your future career, you have come to the right place. This program covers both the academic and practical fields of interpreting and translation allowing students to pursue Australian national accreditation to work as professional interpreters and translators. Studying at Monash University offers various opportunities to collaborate with students and experienced professionals from diverse backgrounds. I find it truly valuable to engage with diverse cultures and perspectives through daily discussions with peers.

M.Oさん

Interpreting units at Monash University offer training in different modes of interpreting on various topics. They also provide milestones such as mock conferences and joint sessions with medical students, allowing students to track their progress. Translation units offer opportunities to engage in various forms of translation, including PR materials for websites and audiovisual translation. It was also enlightening to learn how professionals collaborate on translation projects using technology. Both units are designed to create a supportive environment where students can experiment with new techniques, learn from mistakes, and benefit from intensive training. My year at Monash University has been an enriching journey filled with unforgettable moments and meaningful growth.

通訳翻訳学領域「ダブル・マスタープログラム」への招待

このプログラムでは、通訳や翻訳に関する理論と実践を神戸とメルボルンにある２つの大学院で学び、グローバル化した多言語社会のなかで通用する本物の実力を養成します。「訳す」という営為には、さまざまな点でコミュニケーションの本質に迫る複雑で人間的な行為が含まれています。飛躍的に進歩した AI（人工知能）は「意味」の理解が苦手ですが、それなりに優れた訳出をすることができる（実はできていない？）のは何故でしょう。いま通訳者や翻訳者には何が求められているのでしょうか。そんな問いに、あなたなら何と答えますか。最適な環境のなかで「通訳とは何か」「翻訳とは何か」についての学びを深め、未来に向かって新たな一歩を踏み出してみませんか。

英語学専攻
English Studies

英語学専攻には、語学、文学、通訳翻訳学の３つの領域があります。

語学領域では、英語を対象言語とし、言語知識体系・認知プロセス・対人交渉など、ことばとコミュニケーションにかかわるさまざまな局面について研究します。

文学領域では、主にイギリス･アメリカ･その他の英語圏の文学作品を対象にして、そこに用いられた様々な「表現」や「手法」の特徴を手がかりに、作家の思想や世界観について、作品の背景をなす社会や歴史、他の芸術との関わりも視野に入れながら、多様な角度から研究をすすめます。

通訳翻訳学領域では、実際の通訳・翻訳データを分析して理論的考察を加えることや、通訳・翻訳の評価の問題、認知科学的プロセスの解明などを研究します。

The English Studies Program consists of a Language Unit, Literature Unit, and Interpreting and Translation Unit.

In the Language Unit, students conduct research on various aspects of language and communication, including language knowledge systems, cognitive processes and interpersonal negotiations.

In the Literature Unit, which mainly focuses on literary works in the U.K., the U.S.A. and other English-speaking countries, students conduct research on the thoughts and world views of authors, with their sights also on the intersection of literature with society, history, and other arts.

In the Interpreting and Translation Unit, students offer theoretical speculation by analyzing actual interpreting and translation data, and conduct research on issues of evaluation of interpreting and translation, in addition to clarification of cognitive science processes.

教育研究上の目的

英語学専攻は、英語学、英米文学、通訳翻訳学の各領域において、専門的知識と高度な研究能力の獲得を促す教育・研究を行うことにより、各研究領域についての広く深い理解と洞察に基づいて自ら研究テーマを設定し、適切な分析・批判を行い、かつその成果を発信することができる人材を育成することを目的とする。

研究指導担当教員 Faculty

語学 Linguistics

Franklin CHANG（フランクリン・チャン）

●教授 /Professor

言語心理学の方法で大人と子供が構文や意味をどのように学習し、使用するかについて研究しています。これらの認知システムの特質を理解するため、実験、コンピュテーショナル・モデル、コーパス研究などを手段としています。

I use psycholinguistic methods to study how children and adults acquire and use syntactic and semantic knowledge. To study these cognitive systems, we use various means such as experiments, computational models, and corpora research.

那須 紀夫 Norio NASU

●教授 /Professor

理論言語学、統語論。（i）移動要素の意味解釈および音声化のパターンに関する研究、（ii）文の周縁部の構造に関する研究。

Theoretical linguistics; syntax. Current research topics include: (i) semantic interpretation and phonological realization of copies; (ii) structure of peripheral parts of sentences

本多 啓 Akira HONDA

●教授 /Professor

認知言語学。英語および日本語の文法について認知言語学の観点から研究しています。とくに生態心理学、発達心理学、社会心理学などの知見を踏まえ、人が環境および他者と関わる関わり方の現れとしての言語の姿を明らかにしていく試みに携わっています。

Cognitive Linguistics

山口 治彦 Haruhiko YAMAGUCHI

●教授 /Professor

談話分析、語用論。なかでも英語や日本語における引用・話法の研究やさまざまなディスコース･ジャンル（ジョーク、漫画、小説など）のテクスト分析が、中心的な研究課題である。

Pragmatics and discourse analysis.

文学 Literature

Henry ATMORE（ヘンリー・アトモア）

●教授 /Professor

Science, Culture, and Literature. Technology and Literature. Early twentieth-century American poetry. Victorian studies.

エグリントン みか Mika EGLINTON

●教授 /Professor

1） 英語演劇、特に英国近現代と現代演劇
2） 日英比較演劇、特に東「アジア」におけるシェイクスピア演劇の受容
3） パフォーマンス・スタディーズ
4） 演劇実践翻訳（特に日-英、英-日戯曲翻訳）、ドラマターグ、演劇批評

1） English drama, particularly early modern and contemporary drama
2） English and Japanese comparative drama, in particular productions of Shakespeare in Japan and East Asia
3） Performance Studies
4） Actively involved in the creation of theatre as a translator, dramaturg and critic

西川 健誠 Kensei NISHIKAWA

●教授 /Professor

英米文学におけるキリスト教。主に 17 世紀イギリスの宗教詩を研究。

Seventeenth-Century British Poetry (Donne, Herbert, Milton); Twentieth-Century American Poetry (Wilbur, Bishop)

吉川 朗子 Saeko YOSHIKAWA

●教授 /Professor

イギリス・ロマン派詩人ワーズワスを中心とする近現代英米詩。現在は、ワーズワスの受容のされ方を、文学観光などの文化的・社会的事象との関わりのなかで探っている。

Modern English poetry, especially British Romantics, including William Wordsworth. Currently I research on the popular reception of Wordsworth through exploring cultural and social phenomena such as literary tourism and environmental movement.

通訳翻訳学 Interpreting and Translation

繁沢 敦子 Atsuko SHIGESAWA

●教授 /Professor

新聞記事やルポルタージュ、各種報告書について、草稿などの一次史料と最終発行物を比較検討し、言説が作られていく過程の分析を続けている。メディアによる報道やメディアに対する検閲のほか、世論や世論操作など、言説の形成に影響を与える要素の働きについて考察し、一つの言説が現れた背景の解明を試みる。

My research focuses on analysis of the process of formation of a narrative by comparing manuscripts and other primary sources with their final forms—published newspaper articles, reportage and reports. By examining the mechanism of the work of each element that influences the formation, such as the media coverage and the censorship of the media, as well as the public opinion and the manipulation of the public opinion, I attempt to explore the background from which the narrative was born.

ロシア語学専攻
Russian Studies

入学者はロシア語学およびロシア文学のいずれかを専門領域とし、その領域の範囲の中で研究テーマを決定します。ロシア語を使った議論の進め方に親しんでおくとともに、ロシア語の学術論文の文体に習熟しておく必要があります。

Students will choose either the Russian language or Russian literature as their specific area of expertise and decide their research topic within that area. Students also need to become familiar with the processes of research development, using Russian to acquire proficiency in the writing of academic papers.

教育研究上の目的

ロシア語学専攻は、高度なロシア語運用能力とロシアの言語、文化、社会等に関する高い専門知識を身に付け、日本におけるロシア研究をリードするだけではなく、国際的な舞台でも学術研究に重要な貢献をなしうるような人材、ならびに高度職業人として国際社会の動向に機敏に対応できるような人材を育成することを目的とする。

研究指導担当教員 Faculty

金子 百合子 Yuriko KANEKO
●教授 /Professor

主に現代ロシア語のアスペクトを研究対象とし、以下の課題に取組んでいる。（1）文法アスペクトと動詞語彙意味や接辞派生による語形成意味との関係性、アスペクトと隣接する諸分野（テンス・モダリティ他）との相関性、テクスト構成上の役割といった側面から、アスペクトの機能意味分野を体系化すること、（2）対照言語学的視点から、ロシア語と日本語のアスペクト表現における多様な個別言語的特徴を関連づけて体系化すること。

Modern Russian grammar, Aspectology, Word-formation, Contrastive linguistics

北見 諭 Satoshi KITAMI
●教授 /Professor

ロシア文化史、ロシア思想史専攻
とりわけ、19世紀末から20世紀初頭にかけて哲学、文学、芸術、社会思想など、幅広い分野で生じた「ロシア文化ルネサンス」、「ロシア宗教ルネサンス」と呼ばれるロシア精神史上の重大な転換点を対象に研究を行っている。その目的は、この時代のロシアの知識人に特有の思考様式を明らかにすること、そうした思考様式が成立するうえで、何がその背後にあったのかを明らかにすることである。

Russian Culture, Russian Philosophy

岡野 要 Kaname OKANO
●准教授 /Associate Professor

専門はスラヴ語学。主にロシア語、セルビア語、ブルガリア語およびスラヴ系少数言語のルシン語の語彙と文法を個別言語学的・類型論的観点から研究しています。複数のスラヴ語を対照することで、ひとつの言語を見ているだけでは見えにくい言語固有の特徴や地域的な連続性、意味変化のメカニズムを明らかにすることを目指しています。

Slavic linguistics, Contrastive linguistics

Elena BAIBIKOVA（エレナ・バイビコワ）
●准教授 /Associate Professor

主な研究分野は翻訳研究である。ロシア社会・文化・文学を論題とし、翻訳の社会的文化的な諸相を見つめ、研究を進める。文化的な活動としての翻訳、翻訳者のアイデンティティー、翻訳と異文化コミュニケーションなどのテーマを対象にリサーチする。

Translation studies, Translator studies, social and cultural aspects of translation, Russian literature in translation

伏田 寛範 Hironori FUSHITA
●准教授 /Associate Professor

専門は現代ロシア経済論、比較経済体制論。主な研究対象はロシアの産業政策。とりわけ航空機産業や軍需産業の育成を目的とした政策の分析やそうした政策の策定過程における政治・経済主体の相互関係についての研究を行っている。

Analysis of the Contemporary Russian Economy and Russian Industrial Policy, in particular, Policy Targeting the Restructuring and Development of the Aircraft and Defense Industry, Comparative economic systems

藤原 潤子 Junko FUJIWARA
●准教授 /Associate Professor

文化人類学的な手法でロシア文化研究を行っている。主なフィールドは、ヨーロッパ・ロシア北部と東シベリア。現代ロシアの宗教状況、シベリアのロシア人社会、気候変動の地域社会への影響などについて調査を行っている。

Cultural anthropology, Russian culture

中国語学専攻
Chinese Studies

本専攻では学部で培った知識を基とし、語学または文学・文化の側面から研究を行います。語学研究では、いわゆる古典以外のものを研究対象とするよう指導しており、具体的には、唐宋代以後の白話及び現代漢語（方言を含む）を対象としています。文学・語学のいずれを専攻するにしても、自分の専門以外の知識も幅広く身につけ、将来いわゆる Sinologist に一歩でも近づくことを目指して勉強しています。

Based on the knowledge acquired in the undergraduate course, students conduct research from linguistic or literary-cultural aspects. In their language studies, students are expected to focus on written language after the Tang-Song era in addition to modern Chinese, including dialects as their research subjects rather than the classics. Whichever course is chosen, students are expected to take steps toward becoming professional Sinologists.

教育研究上の目的

中国語学専攻は、中国語圏の言語・文学・文化・社会に関する広範な知識と共に、それらを客観的に分析した上で柔軟に相対化する能力を身に付け、継続的な観察と洞察に基づいて、日本と多様な中国語圏諸地域間との間の相互理解に寄与し、日本および神戸市の持続可能な発展に貢献しうる人材を育成することを目的とする。

研究指導担当教員 Faculty

下地 早智子 Sachiko SHIMOJI

●教授 /Professor

印欧語がセンテンス指向型の言語であるのに対して、日本語や中国語は談話指向型、語用論指向型の言語であるといわれることがあります。ともに談話指向型であり、漢字を有することなどから、日本人にとって中国語は極めて親しみやすい言語であると言えます。しかし、そんな中国語にも日本語からは考えられないような文法現象が多く存在するようです。何が異なるのか、なぜ異なるのかを考えることが私の課題です。

Chinese Linguistics. Contrastive analysis of contemporary Mandarin Chinese and Japanese with emphasis on grammar and semantics.

秦 兆雄 Zhaoxiong QIN

●教授 /Professor

中国社会・文化の理解にとって極めて重要な柱である家族・親族・婚姻・死生観について、その実態と理念及び現代的な諸変化を、実地調査に基づいて実証的に解明しようとしている。また、日本との比較の視点から、今後の中国社会秩序の変動や再構築などを考える上で、宗教や民族などの諸問題がいかに重要な要素になるのかに注目しつつ、都市化やグローバル化などの変動過程において、家族・親族関係がどのように社会保障制度として機能し、文化資源として活用されるのか、都市と農村の格差とそれに起因する人口移動や計画出産問題と関連する少子高齢化問題がいかに重要な要素になるのか、などについても論じている。

My main research, which is based upon fieldwork, compares the Chinese and Japanese systems and cultures of marriage, family, and religion.

竹越 孝 Takashi TAKEKOSHI

●教授 /Professor

中国語歴史文法を研究している。特に元・明・清代における中国語北方方言の変遷過程をアルタイ諸語との接触という観点から分析し直すことを主眼として、中国語とモンゴル語、満州語、朝鮮語などとの対音・対訳資料を用いた研究を行っている。

Chinese historical grammar, specially based on materials outside of China in Yuan, Ming and Qing dinasty.

任 鷹 Ying REN

●教授 /Professor

現代中国語文法を研究している。とりわけシンタックス及び意味論の研究が中心である。

Research interest includes syntax, semantics, and the studies of writing.

濱田 武志 Takeshi HAMADA

●准教授 /Associate Professor

中国語（漢語系諸語）の諸変種の成立過程について、音韻史と方言学の観点から研究している。また、言語史研究の方法論、特に、宋元代の音韻資料に基づく実証的な研究と、現生の変種同士の系統関係を推定する手法とを相互補完することについても強い関心を持っている。

Chinese historical phonology and dialectology, especially materials in Song and Yuan dynasty and modern variants of Sinitic.

福長 悠 Haruka FUKUNAGA

●准教授 /Associate Professor

中国 1930 年代の文学を研究している。社会的動乱を扱った作品に焦点をあて、報道や歴史資料を用いて社会史的、地方史的な視野から作品を読み解くことをめざしている。

Modern Chinese Literature in 1930s, espetially focus on social themes of literary works, and research these historical backgrounds.

教員からのメッセージ
Message

下地 早智子 Sachiko SHIMOJI ●教授 /Professor

琉球大学法文学部国文学専攻を卒業後、財団法人霞山会の派遣留学生として天津市南開大学に2年間留学。帰国後、東京都立大学人文科学研究科修士課程中国文学専攻に讃井唯允先生を指導教官として進学、同大学院博士課程を修了し、2002年に博士（文学）を取得。博士学位論文の題目は、「現代中国語における動詞句の定性 (finiteness) について－“了”と所謂「文終止」の問題に対する一解釈－」。讃井先生が中央大学に転出されていたので、古代中国語をご専門とする佐藤進先生を主査とする。2001年に本学に着任し、2004年度より本学大学院の指導を担当。専門は、現代標準日本語と中国語普通話（いわゆるマンダリン）の文法や意味、語用論的な諸問題に関する対照研究。

研究室紹介

私の研究室の看板は「文法に関する日中対照研究」ですが、受け入れている学生の研究対象の射程は広く、日本語と中国語の言語コミュニケーションにおいて生じるギャップを取り上げるのであれば、どのようなレベルの現象をどのようなアプローチを用いて分析することも認めています。むしろ、「文法的には正しいがネイティブスピーカーはそのように言わない」という言語現象の解明に関心の中心がある、という方が正確かもしれません。中国語学の各分野の中では「参入障壁」が低いので、競争の苛烈な分野であることも付け加えておきます。

研究内容

外界や内面を言語化するヒトが、言語的にどのように自分と描写対象の位置関係を量りつつそれらを表現しているのか、その点で、日本語と中国語それぞれの言語を話す母語話者は外界や内面をどのように把握していると言えるのか、逆に、日中で「自分」が表現される（されてしまう）慣習的な言語表現を直訳すると、相手の言語ではどのように伝達・解釈されてしまうのか、などの問題に関心を持っています。理由は、これらの点が日本語と中国語の様々な文法上の違いの要因として根本的なところで影響していると考えられるからです。また、これは認知言語学という分野の中心的な課題の一つに深く関連しているようです。

とはいえ、最初から問題を明確に意識していたわけではなく、修士論文で手をつけたのは日中の再帰代名詞「自分」と“自己”の文法的振る舞いの違いについてGB理論を用いて説明する試みでした。当時の段階の生成文法は、上手く操作すれば明確な結果が出てきてスッキリするのですが、本当に中国語らしい生の中国語を扱っているというよりも、英語の鋳型に流し込んだような、理論上都合の良い「中国語」だけを扱う点で、物足りなさがありました。その後、修論で評価の高かった観察（「先生が太郎に 自分／彼 の研究室に 来る／行く ように言った」における主観的移動動詞の日中差）から、移動動詞の記述で学会デビューを果たしました。「自分」と「彼」を入れ替えると、その指示対象（「先生」と「太郎」のどちらを指すのか、あるいは第三者か）に伴って移動動詞の選択も変化するのですが、その振る舞いが日中で異なる、というような内容です。移動動詞から空間指示の差異に関心が広がり、「自分」を中心とした空間移動の方向性を「自分」をめぐる出来事の方向性の問題に応用したのが受動表現の対照研究、出来事の時間構成と参照時の「自分」との時間軸上における位置関係を考察したのが「テンス・アスペクト標識」に関する研究に広がりました。

大学院時代を振り返って

私が学んでいた頃の東京都立大学は、日本の中国語学黄金期に学界を牽引する中枢の一つでした。中国語学の各分野を代表するような錚々たる碩学の教授陣が揃っており、漢籍の基本的知識と取り扱い、中国語音韻論、中国の方言地理学、現代中国語文法論の手解きなどを受けることができました。中国語学の先生方は、およそ「永遠に生きるかのように学べ」を地で行くような悠長な講義をされました。「文法に興味があるならパーニニからですね」とパーニニ文典の分厚い日本語訳を手渡されたこともありましたし、「今年は中国語のアスペクトを考えます」ということで、まずはアスペクト優位の言語を学ぶことから始めようと、中国語文法論の講義がキリル文字の表記法と発音のレッスンから始まった年もありました。

私自身、進学当初関心があったのは、当時興隆していた生成文法を用いて現代中国語の構造分析をしてみたいということだったので、学部の英語学概論や、大学院英語学専攻の複数の講義にも出席していました。修士の1年間の講義でRadfordやLangackerを一冊輪読する、というような内容の授業だったと思います。中国語学専攻の講義とは異なり、スピード感とスリルがあり、学内でマルチバースを体験しているようで面白かったです。

また、東京言語研究所の認知言語学講座も複数年受講しました。この他、東京大学で定期的に開催される文法学研究会で日本語学や英語学に関する講座を受講したことや、言語学会の夏期講座で語用論や日本語文法、生成文法、フィールド言語学を受講できたことも有益でした。

都立大学の先輩方は、大小様々な読書会や勉強会を運営していました。1987年に始まったという同人誌『語学漫歩』は、コピー原稿をホッチキスで留めただけの小冊子でしたが、今振り返るとかなりの水準を保っていたように思います。私が都立を去った時期から「業績にならない」と考える後輩がほとんどになり、発行されなくなってしまいました。

本学の大学院を目指すうえで考えて欲しい事や魅力・これから大学院を目指す人へのメッセージ

本学中国語学専攻における歴代の先生方は世界に名を轟かせていると言っても過言ではありません。現在の構成員はというと、おこがましいようですが、私が学んだ時代の東京都立大学中文研を再現したようなスター級の研究者が揃っており、外部からもそのように評価されていると聞きます。

周りのスター級を見ていると実感することですが、研究者というのは一人一人が全くのオリジナルであり、何をどう学べば何の研究者に成れるというようなメソッドは、実はそれほど明確には存在しません。大学院を目指す方は、研究テーマが明確であったとしても、スタート地点では間口を広げ、様々な関連分野を貪欲に覗いてみて下さい。「コスパ」や「タイパ」という言葉が流行っていますが、研究の道は真逆です。煩を厭わずしつこく「当たり前」を問い直しましょう。その時は「自分とは関係ない無駄な時間だ」と感じたとしても、多様で個性的な先生方や異なるモノの見方に出会い、信奉する学説や理論、研究者など、あなたの「神」を相対化しましょう。紆余曲折や回り道を恐れず相対化を楽しむことが、結局は心底やりたい課題を見出し、息の長い豊な研究人生につながるものであるように思います。

イスパニア語学専攻
Spanish Studies

本専攻では、イスパニア語の語学、言語学、およびイスパニア語圏の文学、文化をより深く専門的に学ぶことができます。

イスパニア語の習得、イスパニア語教育の専門家を育成するプログラムも用意されています。

Students in our program are trained to perform any professional task related to Spanish language, linguistics, and the literatures and cultures of Spanish-speaking countries.

We also have a graduate program to create specialists of the acquisition and teaching of the Spanish language.

教育研究上の目的

イスパニア語学専攻は、イスパニア語圏に関する知識および専門分野についての理解を深め、獲得された広範な学術的知見から問題を検討する高度な研究能力を身に付けることで、将来の職務において自立的に新たな課題に取り組み、的確な判断力と柔軟な行動力を発揮することのできる人材の育成を目的とする。

研究指導担当教員 Faculty

Montserrat SANZ（モンセラット・サンス）

●教授 /Professor

専門分野: 理論言語学（統語論-意味論のインターフェース）、言語処理、第二言語習得

言語に内在する意味的概念と、それが文の形でどのように表現されるか（形態素、動詞の変化など）との対応関係を研究しています。また、第二言語習得のプロセス、とりわけ日本語話者がスペイン語を学ぶ際の過程も研究しています。統語的特徴を分析だけでなく、近年では Sociocultural Theory の仮説も取り入れながら研究を進めています。

Field of Specialization: Theoretical Linguistics (Syntax-Semantics Interface), Language Processing, Second Language Acquisition

I study the relationship between the semantic concepts inherent in language and how they are expressed in sentence structure (such as through morphemes and verb changes). Additionally, I research the process of second language acquisition, particularly how Japanese speakers learn Spanish. In recent years, my research has extended beyond syntactic analysis to incorporate hypotheses from Sociocultural Theory.

成田 瑞穂 Mizuho NARITA

●教授 /Professor

ラテンアメリカ作家を中心とする 20 世紀以降の現代スペイン語圏文学研究。作家が世界をどのように眺め、描き出しているのかを分析し論評する文芸批評を主とする。関連して、異言語間の往還作業に表出する文化・思想的差異のありようを考察する日西文芸翻訳研究も行っている。

Latin American Literature／Spanish translations of Japanese literary works

野村 竜仁 Ryujin NOMURA

●教授 /Professor

16 世紀から 17 世紀にかけてのスペインにおける思想運動と黄金世紀と称されるスペイン文学の趨勢、特に同時代のルネサンス運動とキリスト教文学との関連性について、人文主義的な側面に焦点を当てて研究を行っている。

Spanish Renaissance, Spanish Golden Age Literature, Spanish Humanism

穐原 三佳 Mika AKIHARA

●准教授 /Associate Professor

キューバの作家アレホ・カルペンティエルを中心に、ラテンアメリカ文学を研究しています。カルペンティエルについては、作品の多数を占める小説に加えて、バレエや戯曲など舞台向けの作品も分析対象とし、各作品と音楽や絵画といった文学以外の芸術領域との関連について検討しています。

I study Latin American literature, focusing mainly on the Cuban writer Alejo Carpentier. In addition to his novels, I also analyze his works for the stage, including ballets and plays, examining their connections with other artistic fields such as music and painting.

安達直樹 Naoki ADACHI

●准教授 /Associate Professor

スペイン語史、文献学。スペイン語の言語規範がどのように形成されてきたか、文法理論および記述の歴史を文化史、社会史と絡めて研究している。とりわけ、中世後期・ルネサンスから黄金世紀を経て 18 世紀の王立アカデミーの創設に至るまでの時代の文法学、言語（教育）思想に関心がある。

Spanish Philology, Spanish linguistic thought, History of the Spanish language

Juan ROMERO DÍAZ（フアン・ロメロ・ディアス）

●准教授 /Associate Professor

専門分野は意味論の下位領域にあたる語彙意味論です。特に、日本人がスペイン語を学習する際に直面する課題の発見や解決の提案に役立てるよう、外国語としてのスペイン語教育に向けた生成語彙論の応用を研究しています。

My field of specialization is lexical semantics, a sub-discipline of semantics. In particular, I study the application of Generative Lexicon to the teaching of Spanish as a foreign language in order to help Japanese students find and propose solutions to the challenges they face when learning Spanish.

教員からのメッセージ
Message

成田 瑞穂 Mizuho NARITA　●教授 /Professor

神戸市外国語大学イスパニア学科卒業後、同大学大学院へ進学。修士課程イスパニア語学専攻、博士課程文化交流専攻を修了し、博士（文学）を取得。2011 年度より本学大学院の指導を担当。専門はラテンアメリカ現代文学。

どんな研究をしていますか？

研究専門領域はラテンアメリカの現代文学です。もう少し具体的に言うと、20 世紀中葉から現在までに発表されたスペイン語圏のアメリカ（イスパノアメリカ）の文学作品について、なにがどのように描かれているのかという作品の読み解きを中心にした研究をしています。「なにが描かれているか」を考えるためには、作品内に描かれる「物語」を構成するテーマやモチーフが切り口になります。わたしが研究の中心にしているのはカルロス・フエンテスというメキシコの作家で、この作家の作品へのアプローチには、これまでに「歴史」「時間」「幻想」「絵画」といったキーワードを切り口にしてきました。また、「なにが描かれているか」という問いに答えるには、その「物語」の表出を促した、作品の成立背景や作者の文学史上の立ち位置についても考察する必要があり、「メキシコの現実」「独裁者小説」などのキーワードがあります。

もうひとつの、「どのように描かれているか」を考えるためのアプローチには作家の文体や小説技法を分析する方法があり、カルロス・フエンテスの場合、実験的な文体・手法を取り入れた作品も多く、執筆当時の文学潮流による影響や、21 世紀の今、「世界文学」というまなざしから眺めたときに垣間見える文体的先進性という観点にも関心を持っています。

「どのように描かれているか」は、さらに、「どのように翻訳されるか」という問いへ敷衍することができます。研究対象が外国文学の場合、その作品を日本語に翻訳することで、より深い分析が可能になります。「どう描かれているか」の答えである作品世界の全体を、日本語でも感知できるように言葉を移し替えるわけですから、日本語への翻訳という行為そのものが有意義な研究手法だと言うことができるかもしれません。

また、翻訳という作業は、二つの言語を往還する非常に刺激的なもので、研究の中心であるスペイン語文学の日本語への翻訳という一方向だけではなく、日本文学のスペイン語翻訳というベクトルも研究領域の周縁に入れています。日本語の現代文学がスペイン語へ「どのように翻訳されているか」を分析することで、日本語とスペイン語の文学的言語の特性を見いだすことができるのではないかと考えています。

どんな院生生活を送りましたか？

大学院へ進学することは早い段階で決めていました。理由は単純で「もう少し勉強を続けていたいから」というものでした。きちんとした研究テーマを掲げていたわけではないのは少々うしろめたい思い出ですが、外国文学をとおして言葉や世界と向き合うことに興味があって、それを突き詰められる場所として大学院を選びました。プロフィールに記載したとおり、学部・大学院をとおして神戸市外国語大学に在籍していました。学部時代からお世話になっていた教員陣や同輩、先輩たちに囲まれていたので、大学院という新しい場であってもとくに気負うことなく、まさに「ホーム」の感覚で研究活動ができたと思います。修士課程ではチリの作家ホセ・ドノソの代表作、博士課程ではカルロス・フエンテスの作品を中心に研究していました。作家・作品についてすでに研究が進んでいる分野ですから、修士課程ではとにかく先行研究や関連資料を集めて読み込むということをやっていました。ただ、大学院は知識や手法のインプットだけではなく、研究内容を自分なりの言葉でアウトプットすることも必要です。本学のイスパニア語学専攻は修士学生も投稿できる

論文集を発行していて、院進 1 年目から論文を投稿していたのは良い訓練になったと思います。指導教員や同輩・先輩に研究について、ただ話を聞いてもらうというのも、いま思えば得難い経験でした。博士課程に進んでからは博士論文指導のかたわら、大学で教鞭を取るという具体的なキャリアを見据えて教員陣から授業担当の心得なども教えていただいて、現在の教員生活に活かされています。また博士課程在籍中にスペインで日本語を教える機会があったことが、文学研究を翻訳という側面からも考えることにつながっていると思います。

大学院進学を目指す人へのメッセージ

本学イスパニア語学専攻は言語領域と文学領域に分かれていますが、領域を横断する形でカリキュラム編成されています。これは主たる研究領域だけでなくもう一方の領域にも目を配り、スペイン語という言葉とどう対峙するのか、その可能性を見極め、研究につなげることを重視しているからです。

研究対象を絞って専門的に探究していくのが大学院での研究ですが、それはけっして孤独な作業ではありません。本学では、小規模な大学院である利点を生かし、指導教員以外の大学院担当教員も一人一人の学生を丁寧に指導・支援します。院生への指導・支援は、教員にとって研究の視野を広げるきっかけになることも多く、大学院科目は教員と学生の共同研究の側面もあります。

いま手にしている知識をさらに深め、教員や仲間とともに研究者として成長することを目指すみなさんを歓迎します。

院生時代に読み込んだ資料（左）と研究業績（右）

国際関係学専攻
International Relations

本専攻は、本学の長年にわたる外国語教育の伝統を基礎に、法律・政治、経済・経営、文化の３領域から国際関係学を多面的・総合的に研究できるシステムを備えています。少人数での討論を重視した教育方法を採用し、国際社会における問題解決能力を身につけた人材を育成することを目標としています。

Based upon our long-standing tradition of foreign language education, students can conduct multidisciplinary and comprehensive studies in the three areas of law and politics, economics and business management, and culture. As part of an educational method which places emphasis on small group discussion, students are expected to develop their problem-solving skills in regard to international society.

教育研究上の目的

国際関係学専攻は、さまざまな現象について、政治、経済、文化などを総合した広い視野から深く認識、分析、理解した上で問題に取り組む能力を身に付けて、国内外の企業、団体、機関において国際社会の相互理解や交流に貢献する人材の育成を目的とする。

研究指導担当教員 Faculty

経済・経営 Economics and Business Management

千葉 典 Tsukasa CHIBA
●教授 /Professor
国際貿易交渉の展開と世界農産物貿易の動向および両者の関連に関する現状分析、ならびに開発途上国における経済発展と農業の役割に関する研究。
World Economy, International Relations, International Trade, Agricultural Development

藤井 隆雄 Takao FUJII
●教授 /Professor
マクロ経済学についての実証研究を行っている。特に、財政政策に関連するテーマをこれまで研究してきた。具体的には、財政政策の効果、政府支出が民間設備投資に与える影響等である。
Applied econometrics, Macroeconomics, Fiscal policy

石椛 義和 Yoshikazu ISHINAGI
●准教授 /Associate Professor
企業が開示する会計情報と利害関係者の意思決定の関係を研究対象としている。近年は資本市場における開示情報の役割について、市場における価格形成モデルを用いて分析している。
Financial Accounting, Disclosure, Valuation

江阪 太郎 Taro ESAKA
●准教授 /Associate Professor
国際金融の諸問題について研究を行っている。特に、為替レートと各国の為替政策の実証分析を行っている。
International Finance, Exchange Rate, Exchange Rate Regimes

森谷 文利 Fumitoshi MORIYA
●准教授 /Associate Professor
組織の経済学、契約理論、ゲーム理論
Organizational economics, Contract Theory, Applied Game Theory

法律・政治 Law and Politics

大石 高志 Takashi OISHI

●教授 /Professor

南アジアと環インド洋地域の近現代史を、イスラーム教徒の果たした役割などに着目しながら研究してきた。大学院では、広く、近現代のアジア・アフリカ地域を視野において、植民地主義、民族運動、宗教運動、移民、文化変容、起業家活動など、様々な社会的な動態を捉える研究を、指導している。

Post-Colonial Studies; Modern South Asian Studies; Comparative Islamic/Muslim History; Indian Ocean History

五月女 律子 Ritsuko SAOTOME

●教授 /Professor

対外政策および地域協力を研究課題としており、北欧諸国（特にスウェーデン）を分析対象としている。国内政治と国際関係の連関を明らかにすることを目指しており、北欧諸国とEU（欧州連合）の関係および北欧協力を事例研究として多く扱っている。

Foreign Policy, Regional Cooperation, Nordic Countries (especially Sweden), European Union, Nordic Cooperation

山口 智 Satoru YAMAGUCHI

●教授 /Professor

信教の自由

Constitutional Law

上野 正弥 Masaya UENO

●准教授 /Associate Professor

専門は現代中国政治、中国現代史。主な研究対象は、中国政府の宗教政策、キリスト教政策。改革開放政策以降急激に増加したキリスト教プロテスタントの信者組織に対する中国共産党政権の態度と政策、およびその政策に対する社会の反応について研究している。

Contemporary Chinese Politics, History of Modern China, China's Policy to Protestant Churches

木場 紗綾 Saya KIBA

●准教授 /Associate Professor

東南アジア政治研究、および日本の対アジア外交・国際協力・安全保障を専門としている。近年の研究テーマは、東南アジア各国の政軍関係、治安部門改革 / ガバナンス、日本 -ASEAN 関係、東南アジア地域の対日世論、防災をめぐる国際協力、防衛協力、日本の自衛隊 - 社会関係など。

Political Science, Southeast Asian Studies, Japan' Foreign and Security Policies, ASEAN-Japan, civil-military relations, security sector governance, military sociology

廣見 正行 Masayuki HIROMI

●准教授 /Associate Professor

国際法学の中でも、自衛権や国連の軍事的措置に関する安全保障法及び敵対行為の規制や戦争犠牲者の保護に関する武力紛争法を専門として、国際武力紛争が「いつ」「どのように」終結するかを研究してきた。最近は、戦争犯罪や人道に対する犯罪などの重大な国際犯罪の防止及び処罰に関する国際刑事法の研究も進めている。

International Law, International Law on the Use of Force, International Law of Armed Conflict, International Criminal Law

文化 Culture

並河 葉子 Yoko NAMIKAWA

●教授 /Professor

19 世紀イギリスにおける博愛主義の成立と帝国拡大の関連についての研究を行っている。

British imperial history, especially the international anti-slavery movement and the missionary activities from the late 18th century to the 19th century.

Edgar FRANZ（エドガー・フランツ）

●教授 /Professor

ランデンシュタイン城のシーボルト家文書保管所にあるフィリップ・フランツ・フォン・シーボルトの書簡の草稿や覚書に基づき、シーボルトが尽力した日本の近代化への貢献、及び彼が日本開国に与えた影響を中心に研究している。加えて、医学、文学、美術などを含む多様な日独関係とその総合的な影響が研究テーマである。

On basis of Philipp Franz von Siebold's private papers and manuscripts in the Siebold Family Archives in Castle Brandenstein in Germany, the research concentrates on Siebold's significance for the modernization of Japan, the political dimension of Japans activities and Siebold's influence on the opening of Japan for trade and navigation.
Furthermore, various relations between Japan and Germany and their mutual influence, including medicine, literature and art are explored.

阿部 将伸 Masanobu ABE

●准教授 /Associate Professor

哲学、倫理学、思想史。とくに、20 世紀ドイツの哲学者マルティン・ハイデガーについて、その思想はいかに形成され、後世にどのような影響を及ぼしたのかを専門的に研究している。

Philosophy, especially focusing on the philosophy of Martin Heidegger. Ethics. History of ideas.

太田 悠介 Yusuke OTA

●准教授 /Associate Professor

フランス思想、思想史。現代フランスの思想家エティエンヌ・バリバールを中心として、20 世紀後半以降に現れた政治と共同性をめぐる思想を研究している。フランス思想に足場を置きながら、近年はポスト植民地時代の移民社会という現代フランスの課題を視野に入れて、思想と社会のはざまで考察を進めている。

French Philosophy, History of Ideas, Ideas of Politics and Community, Immigration, Etienne Balibar.

Rajeev KUMAR SINGH（ラジブ・クマル・シン）

●准教授 /Associate Professor

資源の最適化、3R アプローチ、循環経済実践による、包括的で持続可能な廃棄物管理戦略の検討。持続可能性に向け廃棄物管理シナリオを設計し、これらのシナリオが環境、社会、経済に与えるさまざまな影響を分析する。さらに、廃棄物管理と気候、健康、教育、地域開発との相互関係を掘り下げる。持続可能な開発目標 (SDGs)、パリ協定、ネットゼロなどの世界的な取り組みに沿った研究をしている。

Explore comprehensive and sustainable waste management strategies by optimizing resources, implementing the 3R approach, and embracing circular economy practices. Design waste management scenarios and analyze the varied impacts of these scenarios on the environment, society, and the economy, to transition towards sustainability. Additionally, delve into the interconnectedness between waste management and climate, health, education and community development. Research aligns with global initiatives such as the Sustainable Development Goals (SDGs), the Paris Agreement, Net Zero, and more.

常行 泰子 Yasuko TSUNEYUKI

●准教授 /Associate Professor

スポーツ文化、身体教育、社会学。国内外における社会調査やアクティブラーニングの手法を用いて、運動・スポーツ、フィットネス、健康等に関する実証的研究について、グローカルの視点から進めている。

Sports Culture, Physical Education, Sociology

宮下 みなみ Minami MIYASHITA

●准教授 /Associate Professor

近現代ドイツ語圏の文学、文化史。ドイツやオーストリアを中心とするドイツ語圏の作家たちが、世界大戦中および世界大戦後に創作してきた文学作品を研究対象とし、特に文学を通じた文化的多様性のあり方の探求という観点から考究を進めている。

My research fields encompass modern and contemporary German literature and its cultural background, with a specific focus on perspectives regarding cultural diversity within literary works during and after the World Wars.

教員からのメッセージ
Message

大石 高志 Takashi OISHI ●教授 /Professor

広島県出身。東京大学大学院総合文化研究科博士課程満期退学。大学院では、ジャワハルラール・ネルー大学（インド）博士課程にも留学（1992-95 年）。その後、日本学術振興会特別研究員ＰＤや東京大学東洋文化研究所機関研究員などを経て、2002 年に神戸市外国語大学助教授として着任。2019 年度より現職。専門は、南アジアや環インド洋地域を対象とした近現代史研究や地域研究。特に、植民地期における政治・宗教的な問題を軸に研究。また、開港後の神戸にも延伸したインド人商人ネットワークや彼等の扱った商品を絡めた社会経済史研究を手掛ける。*Chinese and Indian Merchants in Modern Asia：Networking Businesses and Formation of Regional Economy* (蔡志祥氏や城山智子氏と共編、Brill, 2019) 、パネル特集「20 世紀前半におけるインド社会経済の変容と日印貿易関係：消費、表象、アイデンティティ」『社会経済史学』82 巻 3 号（神田さやこ氏と共編、2016 年）、田辺明生・杉原薫・脇村孝平編『現代インド第 1 巻：多様性社会の挑戦』（大石分担執筆「環インド洋世界とインド人商人・起業家のネットワーク：植民地期における複合性・多様性」、東京大学出版会、2015 年）などの著作がある。その他、国立国会図書館関西館調査員、京都大学東南アジア研究所学外研究協力者、京都大学大学院アジア･アフリカ地域研究研究科特任准教授などを務めた。また、在外研究（2011 年度）では、ロンドン大学 LSE（経済学部）やデリー大学社会学部に客員で所属。

研究内容

南アジア地域と環インド洋世界の近現代史、さらに、在外インド人商人が広域アジアに展開したネットワークの解明を専門としています。

良く知られているように、現在のインドやパキスタンなどからなる南アジア地域は、長い間、イギリスの植民地支配の下に置かれていました。その統治のなかで行われた鉄道網付設やプランテーションなどの植民地開発や、選挙を伴う議会の設置などの政治・行政機構の導入は、独立後の南アジア諸国の経済発展や民主主義の礎になってきましたが、他方、現在まで続く、経済的な不均衡や収奪、政治的差別・混乱、宗教的な対立の前提になってきました。これらの中で、私が焦点を当ててきた問題の１つは、イスラム教徒の人々に関係する諸問題です。彼等の一部が、独立民族運動の最中で標榜することになった政治的な分離主義や、世界のイスラム教徒との連帯を目指す汎イスラム主義、さらにイスラム改革運動や原理主義は、どのように台頭し、元来この地域で歴史的に培われてきた多元複合的なアイデンティティや在地社会の共存を揺るがすようにもなってきたかを解明する努力を続けてきました。

他方、私は、植民地支配や帝国主義に翻弄・阻害されながらも確実に維持されてきた、南アジア世界の豊かな多様性やそのダイナミックな歴史的躍動を積極的に描き出すように努めてきました。特に研究で焦点を当ててきたのは、インド人の商人、移民労働者、起業家の広域ネットワークやそこで扱われた商品群です。一例をあげると、私どもの神戸には明治の開港後にインド人商人が滞留するようになり、彼等のネットワークは、阪神地域の雑貨工業とインドを含むアジア・アフリカの市場とを有機的に結び付けるようになりました。研究では、この動きが、西欧世界が導入した先進的インフラや制度に依存しつつも、同時に、彼等が広域アジアや環インド洋の社会・市場に結び付きながら創生してきた独自の歴史性を踏まえたものであることを明らかにしています。

大学院時代を振り返って

学生の時代、途中で沢山の回り道をしましたが、多くの出会いに助けられました。今にして思えば、全てが糧になっていると思えます。

学生の当時から、南アジアの近現代史を専門としていましたが、周囲には、西アジアや中央アジア、東南アジア、アフリカなど、様々な地域の研究に従事している教員や院生がいました。また、そうした研究者の専門は非常に多様で、経済学や政治学など比較的オーソドックスな学問的枠組みに拠っている方も勿論いましたが、かなり多数の研究者がいわゆる学際的なアプローチだったと思います。1990 年代初め頃、バブル経済の日本を尻目に、アジアやアフリカの多くの地域は、東西冷戦やイデオロギー闘争の軛から脱して大きな飛躍を遂げつつありました。研究者の多くが、そうした胎動を目の当たりにして、その将来的可能性や歴史的泉源を探る作業に学際的に取り組んでいました。この時期、様々な分野の気鋭の研究者、具体的には、長崎暢子、板垣雄三、山内昌之、小松久男、柳澤悠、杉原薫などの先生方の傍らで、先端的な研究を共有することができたことは、何物にも代えがたい財産です。

インドの文書館にて

とは言いつつ、実際は、院生当時、実に迷いが多く、当時新興していたエスニック音楽とジャズの融合したような音楽に傾倒して「ジャズ批評家になりたい」などとも息巻いており、感性と直感の導くままに奔放な時間を送っていました。ただ、幸運だったのは、博士課程で、インドに奨学金を得て留学する機会を得て、その３年間の間に、インドの各地のほか、中央アジアや西アジアなどにも足を延ばすことが出来たことです。実は、現地で最後に急性肝炎を発症して、帰国後も回復に１年以上かかるなどの大いなる時間的ロスもきたしましたが、そうした旅と放浪、出会い、挫折を交えながら、不思議にも無理なく迷いを乗り越えて、現在まで続いているような研究や関心に深い愛着をもつことができました。全て、留学の賜物であったと思っています。

これから大学院を目指す人へのメッセージ

大学院で研究する以上、そのテーマは、真にオリジナルで、斬新である必要があると思っています。そのためには、当然ながら、今までに何が研究により明らかにされているかを知ることが必要になります。こう書くと、窮屈で大変シンドイ作業のように聞こえるかもしれませんが、実際には、どんな事象でも、掘り下げれば掘り下げるだけ、奥深く、明らかにされていないことは沢山あるものです。つまり、一見、些細で枝葉末節なことに見える事象にも、大きな問題に繋がる結節性が宿っているものなのです。大切なことは、自分自身の感性や直感を大切にして、何事も、真摯に掘り下げてみることだと思います。

著書

日本アジア言語文化専攻
Japanese and Asian Languages and Cultures

本専攻には、「日本語」「日本文化」「アジア言語文化」の 3 領域があります。
「日本語」では、近現代の日本語を中心的な対象として、日本語研究を行います。また、日本語と外国語との関わりも重視しています。
「日本文化」では、日本の伝統文化や近現代文化・社会を対象とした研究を行います。
「アジア言語文化」では、中央ユーラシアから東南アジア大陸部までの言語、文献及びそれらの文化的背景について研究します。

The Japanese and Asian Languages and Cultures Program consists of Japanese Language, Japanese Culture, and Asian Languages and Culture units.
In the Japanese Language unit, students conduct research on the Japanese language focusing mainly on modern and contemporary Japanese. The relationships between Japanese and foreign languages are also emphasized.
In the Japanese Culture unit, students conduct research on traditional Japanese culture, and culture and society of modern and contemporary Japan.
In the Asian Languages and Culture unit, students engage in research on the languages, literatures and cultures that span from Central Eurasia to the southeastern Asian continent.

教育研究上の目的

日本アジア言語文化専攻は近現代の日本語を中心とした日本語の研究、日本の伝統文化や近現代文化・社会の研究、東ユーラシア地域の言語文化の研究を通して、的確なデータ分析や文献解釈の能力を身につけ、論理的な思考と新知見の獲得が行える人材の育成を目的とする。

研究指導担当教員 Faculty

日本語 Japanese Language

岩男 考哲 Takanori IWAO
●教授 /Professor
現代日本語の文法を主に研究している。特に、話し言葉に見られる形式の意味、そしてその意味の多様性（とその多様な意味の間のつながり）に関心がある。最近では、会話において話題を導入する形式や引用表現を主な研究対象としている。
Studies in modern Japanese grammar (syntax, semantics)

福田 嘉一郎 Yoshiichiro FUKUDA
●教授 /Professor
日本語の文法の研究を行っている。特に近代語という観点に基づき、中世から現代に至る日本語を主な研究の対象としている。
Studies in Japanese grammar (syntax, morphology)

占部 由子 Yuko URABE
●講師 /Lecturer
日本語諸方言や琉球諸語（とりわけ八重山語）の記述研究を行っている。主に石垣島，西表島，小浜島といった島々で話される伝統的な方言を対象とし，その全容の記述に従事している。さらに，記述を基にして通方言的・通言語的な共通点・相違点を探り，言語の特徴を明らかにする類型論的な手法を用いた研究も行う。
I have been conducting descriptive studies on Japonic languages (especially for Yaeyaman) and typological research based on cross-linguistic comparisons.

日本文化 Japanese Culture

松川 雅信 Masanobu MATSUKAWA
●准教授 /Associate Professor
専門分野は日本思想史、日本近世史。江戸期における儒教の受容・展開の実相を、個々の思想家の視点からのみならず、当該期の政治・社会・文化等との関連から包括的に把握することを試みている。最近では、近代以降の問題にも視野を広げて研究を進めている。
Major in Japanese Intellectual History and Early-modern Japanese History.

山本 昭宏 Akihiro YAMAMOTO
●准教授 /Associate Professor
メディア文化史、歴史社会学研究。核エネルギーに関する日本人の認識を、新聞・雑誌・漫画・映画・小説などの様々なメディアに注目して研究している。それに基づいて、日本の現代文化との比較研究も行っている。
History of media culture. Historical Sociology

アジア言語文化 Asian Languages and Cultures

林 範彦 Norihiko HAYASHI
●教授 /Professor
言語学専攻。専門領域は東アジア･東南アジア大陸部の諸言語である。中国雲南省で話されるチベット・ビルマ系言語であるチノ語の記述言語学的研究を中心に、東南アジア大陸部北部地域（タイ文化圏）の諸言語の地域言語学的研究を行っている。フィールドワークを手法とする記述言語学・言語類型論・歴史言語学（比較言語学・言語接触論）からこれらの諸言語にアプローチしている。また記述言語学と言語理論（生成文法・認知言語学等）の有機的な連携にも強い関心がある。
Tibeto-Burman Linguistics and Southeast Asian Languages

英語教育学専攻 ― 4学期・週末利用型リカレント教育大学院 ―
English Language Education and Research

英語教育学専攻は、現職教員として日頃の教育現場で必要とされる高度な英語運用能力や英語教師としての専門的な知識・技術を向上させることを目指しています。大学教員と小学校、中学校および高等学校の教員が理論と実践を学び合い、情報を共有することを基本姿勢としています。授業科目は中・高等学校英語教育コースと児童英語教育コースに分かれています。

The English Language Education and Research Program aims to help students acquire advanced English language proficiency necessary for daily classroom teaching, as well as expand professional knowledge and improve the techniques of practicing teachers. Its basic stance is that university faculty members and elementary, junior and senior high school teachers learn theory and practice from each other and share information. Classes are divided into a junior high and high school English education course and an elementary school English education course.

教育研究上の目的

英語教育学専攻では、学生の持つ「教える」、「学ぶ」、「教育」といった観念への理解を対話的に深めながら、時代のニーズに合った英語教育の知識や実践力を身につけることを目的とする。そして、英語教師として効果的な授業を提供できることはもちろん、教育者として自律的・内省的に成長し続けられる人材の育成を目指す。

研究指導担当教員 Faculty

山口 征孝 Masataka YAMAGUCHI

●教授 /Professor

言語人類学における理論と方法を中心に研究しています。英語教育の授業では、授業で使える教案を「発話行為理論」を出発点にして書くことを目標にしています。研究面では文化進化論に関心があります。

I take a multidisciplinary approach to language, culture, and society. At graduate school I offer a course in which speech act theory is used for designing lesson plans for communicative language teaching. In my research I have been recently working on the evolutionary theory of culture.

濱田 彰 Akira HAMADA

●准教授 /Associate Professor

英文読解の認知プロセスや、リーディングを通した知識の習得メカニズムを、心理言語学的なアプローチで研究しています。他にもアクションリサーチ、エビデンスに基づく英語教育、教育評価に興味があります。

My research takes a psycholinguistic approach to cognitive processes in second language reading and learning from texts. I am also interested in action research, evidence-based practice, and educational assessment.

Michael HOLLENBACK（マイケル・ホリンバック）

●准教授 /Associate Professor

英語教育に加え、英語教育と社会的公正、グローバル・シティズンシップ、異文化間コミュニケーション能力との関連について研究しています。さらに日本や世界のさまざまな国々において英語がどのように用いられているかを社会言語学の観点から研究しています。

My research focuses on English Language Education and Teaching and its connection to Social Justice, Global Citizenship, and Intercultural Communicative Competence. I also focus on Sociolinguistics, especially how English is used in Japan, as well as by other groups and countries around the world.

大槻 有佳子 Yukako OTSUKI

●講師 / Lecturer

専門は言語教育です。特に、小学校英語教育における教師教育・教員養成のあり方、省察（reflective practice）を取り入れた研修について、社会文化的な視点から探求しています。先生方が、知識を得たり対話をしたりしながら自分の授業について振り返り、自律的に成長していくことを積極的に研修に取り入れることが大事だと思っています。

I specialize in language education, with a particular focus on teacher education in English education at the elementary school level. From the social-cultural viewpoint, I have explored effective (pre- and in-service) teacher education including teachers' reflective practice. I think that it is important to encourage teachers to develop their teaching autonomously through reflective practice with gaining knowledge and interacting with their colleagues.

矢形 勝秀 Katsuhide YAGATA

●講師 /Lecturer

教育者としては、哲学的解釈学や現象学を応用したリフレクティヴ・プラクティスを英語教育・教師教育において実践しています。研究者としては、内省を通した第二言語教師の成長の過程を描写することや、教室という現場で日々経験される様々な現象の気付かれていない意味を明らかにすることに興味があります。

In my pedagogical approach as an English teacher and a teacher educator, I employ reflective practice applying philosophical hermeneutics and phenomenology. As a researcher, I am interested in describing the reflective learning process of second language teachers and revealing unnoticed meanings of phenomena often experienced in the classrooms.

Stephanie YAGATA（ステファニー・ヤガタ）

●講師 /Lecturer

「良い」教育とは何か、教師はどう教育される「べき」か、「インクルーシブ」とは何を意味するのか、言語はどのようにして教えられる「べき」かという暗示的・明示的な文化的価値観について、教育人類学の視点を通して探求しています。研究分野は、インクルーシブ教育、音声言語病理学、教師教育、幼児教育、TESOL における発音指導・intelligibility（伝わりやすさ）指導です。

Through the lens of educational anthropology, my current work explores questions about the implicit and explicit cultural notions of what "good" education means, how teachers "should be" educated, what it means to be "inclusive," and how languages "should be" taught. My research has focused on speech-language pathology, inclusive education, teacher training, and early childhood education. My current research and teaching interests also include pronunciation and intelligibility instruction in the field of TESOL.

概要
Program Outline

本学博士課程文化交流専攻には、言語コース、文化コース、国際社会コースの３つのコースがあります。

本課程は、言語、文化、歴史、政治、経済、社会、国際関係等の領域を従来のように閉じられたものとしてではなく、「交流」、「接触」、「摩擦」、「共生」といった相互の関係性の中でとらえていくことが必要不可欠だと考えます。そのため、研究領域の枠組みをできるだけ緩やかで柔軟なものにすることによって、それぞれの分野が相互に刺激し合い、研究・教育のより一層の活性化をはかるとともに、創造的で大胆な発想を備えた知性を生み出したいという配慮のもとに、一専攻のなかに３コースを設置しました。

The Doctoral Program provides students with a choice of three courses: the Linguistics Course, the Cultural Studies Course and the Social Studies Course. Students study the interchange, contact, friction and coexistence of cultures, all common to their fields of study, while they are also engaged in research in their respective areas of specialization. This curriculum gives students the opportunity to be original and creative, and it aims to foster those who can reshape conventional and closed fields of study into highly interdisciplinary new ones.

博士課程の目的 Purpose of Doctoral Program

専門分野における高度な専門知識と優れた研究能力を有するとともに、従来の学問領域を学際的な視点から再構築し、領域横断的な知を創出しうるような、独創性と創造性を兼ね備えた研究者を育成することを目的とする。

修業年限 Course Term

３年　Three Years
※１　長期履修学生制度を設けています。　Registration Period Extension System is available.
※２　在学延長制度を設けいています。　System for Extension of Enrollment Period is available.

入学定員 Enrollment Quota

専　攻　Major	コース　Course	定員　Capacity
文化交流専攻 Cross-Cultural Interaction	言語コース　Linguistics	12
	文化コース　Cultural Studies	
	国際社会コース　Social Studies	

学 位 Degree

専攻名・コース名　Major & Courses	学位 Degree	学位に付記する専攻分野の名称 Major Appended to the Degree
文化交流専攻　Cross-Cultural Interaction ・言語コース　Linguistics ・文化コース　Cultural Studies ・国際社会コース　Social Studies	博士 Ph.D.	文学　Literature 国際関係学　International Relations 学術　Philosophy

課程修了要件 Program Completion Requirements

本学博士課程に３年以上在学し、大学院履修規程に定める授業科目のうち、専攻するコースの授業科目４単位以上を含む合計６単位以上を取得するとともに、博士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格することを要します。

A candidate for the Doctor's degree will study at the university for at least three years, acquire 6 credits or more from the predetermined class subjects, submit a Doctoral Dissertation and pass its screening in addition to the final examination.

文化交流専攻
Cross - Cultural Interaction

教育研究上の目的

文化交流専攻は、専門分野における高度な専門知識と優れた研究能力を有するとともに、従来の学問領域を学際的な視点から再構築し、領域横断的な知を創出しうるような、独創性と創造性を兼ね備えた研究者を育成することを目的とする。

言語コース Linguistics Course

本コースは、日本語とその近隣言語を対象とした包括的な言語研究を行うことを目的としており、各言語の交流と接触の諸相を見通しながら個々の言語を研究するとともに、時間と空間、地理的特性などの観点から多様な言語を比較研究します。

This course aims at providing comprehensive language studies by focusing on Japanese and its neighboring languages, observing prospects of language exchange and contact in the future, studying each individual language, and comparing various languages in terms of time, space and geographical features.

文化コース Cultural Studies Course

文化コースは、世界を、日本を含むアジア地域、中近東とアジアの一部を含むイスラム圏、ヨーロッパと南北アメリカの４つの地域に分け、それら相互の交流、接触と個々の文化研究を着実かつ創造的に研究します。

The course aims at promoting surefooted and creative studies under the four divisions of a cultural framework: Asia including Japan, Europe, the Americas combined, and an Islamic sphere, instead of the traditional divisions based on political structure.

国際社会コース Social Studies Course

このコースでは、激動と変革の時代の中で大きく揺れ動いている国際社会を、その基礎となる地域社会の研究を出発点にしながら相互関係を含めて総合的に研究します。法律政治、経済経営、地域研究の３つの分野における多様なプログラムを提供します。

In this course, we provide a variety of programs in three fields based on our university's long tradition as a foreign language educational institution: Law and Politics, Economics and Management, and Area Studies.

博士論文の執筆 Writing of Doctoral Dissertation

博士課程に入学した者は、1 年次･2 年次の各年次において、入学当初に提出した「執筆計画書」に沿い、「報告論文」を作成し指導教員に提出します。2 年次の報告論文の審査に合格した者には、論文執筆許可が与えられ、論文執筆許可を得た者は、学内３名以上からなる審査委員会によって行われる「予備審査」を申請することができます。

予備審査に合格すると「本審査」の申請をすることができ、本審査では予備審査委員に学外専門家１名以上を加えた博士論文審査委員会において審査を行います。

Doctoral students must submit an "annual study report" to their supervising faculty member in both their first and second years according to the "writing plan" submitted upon enrollment. Those who pass the screening of the second year report are allowed to write a Doctoral Dissertation and apply for preliminary screening. Students who pass the screening are then allowed to apply for the final screening. The final screening committee is composed of scholars, including at least one from outside this university.

研究指導担当教員 Faculty

言語コース Linguistics Course

日本語演習
Japanese Linguistics

岩男 考哲 Takanori IWAO
●教授 /Professor

福田 嘉一郎 Yoshiichiro FUKUDA
●教授 /Professor

アジア言語演習
Asian Linguistics

金子 百合子 Yuriko KANEKO
●教授 /Professor

下地 早智子 Sachiko SHIMOJI
●教授 /Professor

竹越 孝 Takashi TAKEKOSHI
●教授 /Professor

任 鷹 Ying REN
●教授 /Professor

林 範彦 Norihiko HAYASHI
●教授 /Professor

岡野 要 Kaname OKANO
●准教授 /Associate Professor

濱田 武志 Takeshi HAMADA
●准教授 /Associate Professor

欧米言語演習
European & American Linguistics

Montserrat SANZ モンセラット・サンス
●教授 /Professor

Franklin CHANG フランクリン・チャン
●教授 /Professor

本多 啓 Akira HONDA
●教授 /Professor

山口 治彦 Haruhiko YAMAGUCHI
●教授 /Professor

濱田 彰 Akira HAMADA
●准教授 /Associate Professor

文化コース Cultural Studies Course

日本文化演習
Japanese Culture

山本 昭宏 Akihiro YAMAMOTO
●准教授 /Associate Professor

アジア文化演習
Asian Cultures

北見 諭 Satoshi KITAMI
●教授 /Professor

秦 兆雄 Zhaoxiong QIN
●教授 /Professor

Elena BAIBIKOVA エレナ・バイビコワ
●准教授 /Associate Professor

欧米文化演習
European & American Cultures

エグリントン みか Mika EGLINTON
●教授 /Professor

並河 葉子 Yoko NAMIKAWA
●教授 /Professor

成田 瑞穂 Mizuho NARITA
●教授 /Professor

西川 健誠 Kensei NISHIKAWA
●教授 /Professor

野村 竜仁 Ryujin NOMURA
●教授 /Professor

山口 征孝 Masataka YAMAGUCHI
●教授 /Professor

吉川 朗子 Saeko YOSHIKAWA
●教授 /Professor

国際社会コース Social Studies Course

国際法政比較研究
Comparative Studies of International Laws and Politics

五月女 律子 Ritsuko SAOTOME
●教授 /Professor

国際経済・経営比較研究
Comparative Studies of International Economy and Management

江阪 太郎 Taro ESAKA
●准教授 /Associate Professor

地域研究
Area Studies

大石 高志 Takashi OISHI
●教授 /Professor

千葉 典 Tsukasa CHIBA
●教授 /Professor

※上掲の一覧に記載がない教員の指導を希望される場合は、ご相談ください。

教員からのメッセージ
Message

林 範彦 Norihiko HAYASHI ●教授 /Professor

大阪府出身。京都大学大学院文学研究科博士後期課程研究指導認定退学。博士(文学)。日本学術振興会特別研究員(東京大学)を経て、2007年神戸市外国語大学専任講師着任。2018年より現職。専門は言語学、とりわけ記述言語学・歴史言語学。中国で話されるチノ語やアク語などのチベット・ビルマ諸語、ラオスで話されるアカ語方言やロロポ語（チベット・ビルマ諸語）、タイで話されるセーク語（タイ･カダイ諸語）などのアジアの少数言語を現地調査し、記述している。著書に『チノ語文法（悠楽方言）の記述研究』（神戸市外国語大学外国学研究所，2009年）、編著に *Topics in Middle Mekong Linguistics*（神戸市外国語大学外国学研究所，2019年）、*Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 5: Diversity of Negation*（池田巧氏と共編，京都大学人文科学研究所，2022年）などがある。趣味はクラシック音楽（特にルネサンス期・バロックの音楽とモーツァルト）の鑑賞。

博士の学位をとることについて

一般には「博士号取得」となると、なんとなく「ハードルが高い」という印象を持つ人が多いのではないでしょうか。

確かに、「博士課程に進学する」ということは日本では「今後は学問の世界に生きる」ということと同義に扱われてきました。今もその傾向が強いです。このパンフレットを手にしたあなたも迷われているかもしれません。

しかし、修士課程まで取り組んできたテーマが心底面白いと思ったあなたは、さらにそれを掘り下げてみる価値にも気づいているのではないでしょうか。人文社会系の研究は、時間をじっくりかけて取り組むテーマが多く、修士課程では課題がまだ十分解決できなかった人も少なくないと思います。博士号を取るということは、自分の選んだテーマで発見した知見が世界で初めてであり、そして世界中で誰よりもそのことに詳しくなる、ということなのです。

博士課程では先行研究を渉猟し、自らテクスト資料 / 史料を読解したり、現地調査やアンケート調査を行ったり、データ分析を専門的な手法で行うなど、より高度で先進的な理論と方法論 (あるいは全く新しい手法) を用いてテーマに取り組みます。修士号までのしっかりとした学識と粘り強さ、そして指導教員や仲間との研究交流を持って取り組めば、博士号取得は誰にでもチャンスがあります。その過程で得られた発見はきっとあなたの世界観を変え、またあなたの研究世界に刺激を与えることでしょう。

大学などの高等教育機関の就職では博士号取得が今やほぼ必須条件です。海外での就職にも有利に働く可能性があります。学問の楽しさに気づき、深く掘り下げたいと思ったみなさんには、ぜひ博士号取得を検討してほしいと思います。

研究者としてのアドバイス

研究者とは、その分野の研究事情について詳しいということと同時に、絶えず新しい知見を追い求める人間であると思っています。そのためには、先行研究を十分に把握し、また学会や研究会などに出席して、最新の研究に常に触れるようにするなどの努力が必要です (私の研究室では特に国際学会での発表を奨励しています)。伝統的な考えだけでなく、新しい研究手法や視点を得ることは、みなさんの研究能力を高めると同時に、研究に深みを持たせると思います。

そして、何より難しいけれども、大切なことは、「現象を素直な目でみる心」です。人間は成長する過程で、いろんな経験を積み、知識を蓄えていきます。それ自体は非常に重要なことですが、他方いろんなことに慣れてしまい、「ものが見えなくなる」ことも増えていきます。学問も同じです。知識を得ると、学問の体系を深く理解できるようになる一方、新しい現象などを先入観なしに捉えることが難しくなります。これが学問の伸長には大きな障害になり得ます。新しい知見は、従来の常識では捉えきれないところに潜んでいることが多いです。「当たり前だと思っていることを素直な心で捉え直す」、この単純ながら難しいことに取り組み続けられるようになることが研究者への道だと思います。そして、私自身今もこの難しさを痛感しながら、日々を過ごしています。

また「簡単な」課題や「流行の」課題ばかりに飛びつかずに、時には難しいテーマにも挑戦しましょう。直接は関係しなくても、関連する研究を丹念に調べたり、様々な研究仲間との語らいを続ける中で、突破するヒントが見つかったりします。教員としてはそのサポートを最大限行いたいと思っています。

博士課程を目指す方へのメッセージ

さて、博士課程を目指そうとするみなさん。もう一度よく考えてみてください。今から研究しようとするテーマをとことん掘り下げてみたいという気持ちに満ちあふれていますか。誰もが気づかなかった、新しい知見を得ようとすることにワクワクしていますか。

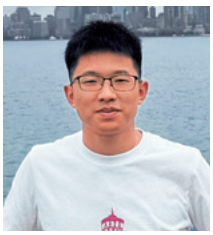
博士課程での研究生活は楽しいことばかりではありません。資料 / 史料の解読が難しかったり、現地調査が難航したり、資金的な困難が生じたり、解決すべき問題が山積みだったり、研究計画を大幅に変更する必要があったり、苦しいこともあるでしょう。学会・研究会での研究発表、博士論文の元となる論文の執筆、奨学金や研究助成の応募など、様々なプレッシャーも大きいでしょう。

それでも研究生活を送る中で得られる、データの分析方法や他者に研究内容をわかりやすく伝える技術、そして同じ道を進む仲間との濃密な時間はみなさんの人生にとって何にも代えがたいものです。私も院生の頃、よく仲間達と沢山の勉強会や読書会を開き、大いに刺激を受けました。そして、研究生活で身につけたスキル (読解力、文章作成能力、語学力や問題発見能力、創造的な解決力など) は実社会や実生活でも広く応用できます。ともあれ、研究の楽しさがすべてを上回ると考える人達に向いています。

博士課程で必要なことは学問をこよなく愛する心、そして、基礎的なこと（知識・研究上のルール・方法を含めて）をおろそかにせず、ひたすら貪欲に学ぶ姿勢です。

神戸市外国語大学大学院では、各分野の第一線で活躍する教員がみなさんの研究をサポートします。どうか臆せずその門を叩いてください。みなさんにとって充実した博士課程の学びがあることを願っています。

大学院生活を振り返って 修了生からのメッセージ
Message



B.L さん

博士課程　文化交流専攻
言語コース
修士課程日本アジア言語文化専攻
日本語領域修了

▶神戸市外国語大学の大学院を選んだ理由を教えてください。

中国の大学で日本語を勉強したことがきっかけで、もっと日本語を研究したいと思い、日本へ留学することを決めました。神戸市外国語大学は、語学や国際交流に特化した教育を提供しており、大学院でもその専門性をさらに深められることに魅力を感じ選びました。

▶どのような学生生活を過ごしましたか。

私は大学院で日本語学に関する専門的な知識を深めることに重きを置き、授業やゼミ、研究活動に多くの時間を費やしました。特に研究に集中し、授業の合間には図書館でリサーチや論文執筆に取り組みました。研究以外では、任意団体であるグローバル文化部の代表を務めており、外大の留学生を集めて毎週バトミントンやバスケットボールなどの練習も行っています。

▶大学院ではどのようなテーマで研究していますか。

日本語教育において習得が難しい項目の一つである自他動詞の習得に注目して、「日本語学習者の自他選択は母語話者とどう異なるのか―非意図的な出来事に着目して－」をテーマとして研究しています。

▶修士課程 / 博士課程を通してどのようなことを学びましたか。

指導教員のご指導の下で、日本語の文法、語彙、発音、表現方法について、さらに深く学ぶことができました。日常的なコミュニケーションだけでなく、文学や文化、歴史に関わる言語的な側面にも触れることができました。

▶修士課程 / 博士課程修了後の進路を教えてください。

博士課程を修了後は、日本語の教員になりたいと考えています。本学で学んだ専門的な知識を活かし、日本語を母語としない学習者に対して、どのように日本語を教えるのか、教育方法論や教材の作成に役立て、教授法の基本や効果的な指導方法の確立に繋げていきたいと考えています。

A.S さん

関西大学大学院外国語教育学研究科博士課程後期課程、フリーランス翻訳・通訳・講師
修士課程英語学専攻通訳翻訳学領域修了

▶神戸市外国語大学の大学院を選んだ理由を教えてください。

翻訳者として約 20 年働く中で、機械翻訳の浸透など環境の変化に直面するようになりました。また、地元鳥取に駐留した占領軍の報告書を和訳する公的事業では、翻訳上の判断に迷うこともありました。翻訳学の理論を学ぶことで自らの課題を解決し、今後の翻訳者のあり方を探りたいと考えました。翻訳学を扱う日本の大学院は限られる中で、通訳翻訳領域が設けられ、翻訳に加えて実践的な通訳も学べる神戸市外国語大学大学院を志望しました。

▶どのような学生生活を過ごしましたか。

30 年ぶりの学生生活であり、翻訳学や言語学の初学者でもあったため、仕事をしながらの授業準備と研究に苦労しましたが、指導教授ならびに諸先生方の丁寧なご指導と、院生同士の議論から得た知見のおかげで充実した日々となりました。鳥取と神戸の 2 拠点生活の中、心強く温かい仲間と励まし合った研究室はホッとできる空間でした。勤勉で優しい学部生に混じって受講した学部の授業も新鮮でした。高速バス内で論文を書いたのも良い思い出です。

▶大学院ではどのようなテーマで研究をしましたか。

戦後占領期に各都道府県に駐留した軍政部が作成した「Monthly Activities Report」（月例活動報告書）について、後世における和訳が県史などに収録されています。研究ではこうした翻訳事例を収集、分類した上で、訳注や解説、口絵などの訳文以外の情報（パラテクスト）に、何がどれだけ詳しく記述されているか、いわゆる「厚い翻訳」がどう行われているかを分析しました。また、翻訳事例を時系列に概観し、当報告書翻訳の歴史についても考察しました。

▶大学院を通してどのようなことを学びましたか。

翻訳の歴史と理論を学んだことで視野が広がり、「翻訳はこうあるべき」という考えから脱却して客観的な視点を持てるようになったと感じています。字幕翻訳の理論と実践も学び、コンテストにも挑戦しました。充実した設備の教室で行われる通訳の授業では、第一線の放送通訳者の先生からご指導を頂き、苦手だった同時通訳も手応えを感じるようになりました。大学院や第 2 部の社会人学生の方々からは、年齢にかかわらず学ぶ姿勢を教えて頂きました。

▶大学院を通して学んだことが、どのように仕事に役立っていますか。

研究で収集、分析した軍政部「月例活動報告書」の翻訳事例は、現在携わっている鳥取での事業の先行事例として参照するとともに、当事業の特徴を把握する一助となっています。何より、翻訳と通訳上の課題について、自身の経験則のみならず理論に基づいて判断や提言ができるようになり、翻訳者・通訳者としての自信につながりました。翻訳研究の面白さを実感する中で新たな研究課題も見つかり、博士課程進学への動機につながりました。

主な就職先・修了後の進路 （2016 年度～ 2025 年度）
Career Path after Graduation

（企業は50音順）

メーカー
株式会社IHI、株式会社バンダイナムコエンターテインメント、TOA株式会社、Dell Technologies株式会社、日工株式会社、松下家電（中国）有限公司

金融
四国銀行、瑞穂銀行（中国）有限公司

サービス
岩井特許翻訳事務所、株式会社アネット、日本航空株式会社、日本コンベンションサービス株式会社、吉川国際特許事務所

流通
株式会社ニトリ、株式会社ファミリーマート、似鳥（中国）投資有限公司

運輸
神戸電鉄株式会社

情報通信
NECソリューションイノベーション

教育・教員（大学講師等）
安徽工程大学、大阪産業大学、大阪成蹊学園、岡山大学（非常勤）、関西学院大学（2名）、近畿大学（非常勤）、神戸市外国語大学（非常勤）、神戸大学（非常勤）、立命館大学（非常勤）

（中学高校教員）
香川県教育委員会、神戸市教育委員会、滝川中学校・高等学校、東洋大学附属姫路中学校・高等学校、奈良県教育委員会、広島市教育委員会

公務
内モンゴル省（中国）、野迫川村役場

（その他）
在外公館派遣（サンクトペテルブルク）

大学院進学
暨南大学、京都大学大学院、神戸市外国語大学大学院、神戸大学大学院

サポート体制

就職相談の受付
神戸市外国語大学の在学生及び卒業生を対象に職員が「就職相談」に応じます。

個別相談
専門のスタッフが、進路・就職活動に関する相談を受け付けています。一人ひとりの相談内容に応じて、きめ細やかに対応しています。

就職活動セミナー・ガイダンス
就職活動の進め方やエントリーシートの書き方などの基礎から、英語面接対策講座や特定業種の志望者向けセミナー等を行い、就職活動をサポートします。

学内企業説明会
企業等の人事・採用部門の担当者にご来校いただき、本学生のみを対象にした企業説明会を行っています。

研究生・外国人研究生　研修員・特別研究学生
Research Students・Int'l Research Students・Graduate Trainees・Special Research Students

研究生、外国人研究生、研修員は年２回募集を行っており、第１次募集合格者の入学時期は 2025 年９月・第２次募集合格者の入学時期は 2026 年４月です。

研究生 Research Students

研究生とは、本学大学院研究科の修士課程または博士課程に進むことを希望する者で、特定の事項について修士課程または博士課程の指導教員のもとで、研究を行う者をいいます。研究期間は原則１年ですが、研究期間の延長を希望するときは、１年に限り許可することがあります。第１次募集で合格をし、その後修士課程または博士課程の入学試験に合格した者は、2026 年４月から各課程に進学することが可能です。詳しくは募集要項をご覧ください。

入学時必要経費

種　別	金　額	備　考
入　学　金	84,600 円	合格時に一括納入
授業料（第１次募集）	178,200 円	月額　29,700 円× 6 ヶ月分（10 月～３月） 研究生を 2025 年４月以降も継続の場合、４月からの授業料は別途案内いたします。
授業料（第２次募集）	前期分 178,200 円 後期分 178,200 円	月額　29,700 円× 6 ヶ月分（４月～９月）　※５月納入 月額　29,700 円× 6 ヶ月分（10 月～３月）※ 11 月納入

研修員 Graduate Trainees

研修員とは、大学院研究科博士課程に所定の年限在学し、かつ必要な単位を修得し退学した者およびこれと同等以上の学力があると認められた者で、博士課程指導教員のもとで、博士論文作成のための研究を行う者をいいます。研究期間は１年とします。ただし、特別の理由があるときは、１年毎に研究期間の延長を許可することがあります。詳しくは募集要項をご覧ください。

入学時必要経費

種　別	金　額	備　考
入　学　金	84,600 円	合格時に一括納入
授業料（第１次募集）	178,200 円	月額　29,700 円× 6 ヶ月分（10 月～３月） 研修員を 2025 年４月以降も継続の場合、４月からの授業料は別途案内いたします。
授業料（第２次募集）	前期分 178,200 円 後期分 178,200 円	月額　29,700 円× 6 ヶ月分（４月～９月）　※５月納入 月額　29,700 円× 6 ヶ月分（10 月～３月）※ 11 月納入

特別研究学生 Special Research Students

特別研究学生とは、他の大学院に在学中で、在学する大学院からの推薦を受けて、特定の事項について、修士課程または博士課程の指導教員のもとで研究を行う者をいいます。研究期間は最長１年間です。特別研究学生を希望される方は、別途ご連絡ください。ただし、相当の理由があるときは１年に限り延長することがあります。

入学時必要経費

種　別	金　額	備　考
授　業　料	半期分　178,200 円	月額　29,700 円× 6 ヶ月分 （年額　356,400 円）

◆研究生・外国人研究生・研修員・特別研究学生を修了しても学位・資格等は授与されません。指導教員が研究上必要と認めた場合は、大学院の授業に出席することができますが、単位の認定は行いません。

外国人研究生 International Research Students

外国人研究生とは、外国籍で大学院研究科において相当の研究計画に基づき、指導教員のもとで研究する者（留学生）をいいます。研究期間は原則１年ですが、研究期間の延長を希望するときは、１年に限り許可することがあります。第１次募集で合格をし、その後修士課程または博士課程の入学試験に合格した者は、2026 年４月から各課程に進学することが可能です。詳しくは募集要項をご覧ください。

入学時必要経費

種　別	金　額	備　考
授業料（第１次募集）	49,200 円	月額　8,200 円× 6 ヶ月分（10 月～３月）合格時に一括納入 外国人研究生を 2026 年４月以降も継続の場合、４月からの授業料は別途案内いたします。
授業料（第２次募集）	98,400 円	月額　8,200 円× 12 ヶ月分（４月～３月）合格時に一括納入

出願～入学手続きまでの流れ

	第１次募集（2025 年秋入学）	第２次募集（2026 年春入学）
指導教員の事前了承	出願前まで	出願前まで
出願手続き	2025 年６月 18 日（水）から６月 24 日（火）	2026 年１月 13 日（火）から１月 19 日（月）
選考試験日	2025 年７月 16 日（水）	2026 年２月 24 日（火）
合格発表	2025 年７月 25 日（金）	2026 年３月 6 日（金）
入学手続き	2025 年８月 15 日（金）	2026 年３月 13 日（金）
入学時期	2025 年９月	2026 年４月

学生紹介
Message from a Student

外国人研究生

Q.X さん

▶外国人研究生として入学し、本学での授業や指導を受けた感想を聞かせてください。

神戸市外国語大学で外国人研究生として過ごした半年間は、私にとって非常に貴重な経験となりました。この半年間で様々な授業を受けて、学問的な視野を広げるとともに、自分の研究テーマについて深く考える機会を得ることができました。また、授業で先輩の研究テーマについての発表を聞いて、意見交換をする機会も多くありました。

▶秋に入学して良かった点は何でしょうか。

秋入学は日本の大学院では留学生が多く入学する時期で、他の外国人研究生と一緒に新しい環境に順応していく心強さを感じました。異文化へ適応がスムーズになり、安心して授業に集中することができました。また、秋入学をする留学生向けのオリエンテーションが丁寧に行われることも秋入学の利点の一つです。日常生活や研究環境に早い段階で慣れることができました。

▶修士課程の入試に合格した感想を教えてください。

修士課程に合格した時はこれまでの努力が報われたという達成感がありましたが、これから、さらに本格的な研究生活が始まるという緊張感も感じました。今後は、これまで以上に深く東北方言の研究に取り組み、程度副詞を中心とした言語学的な課題を掘り下げながら、自分の研究をさらに発展させていきたいと思っています。

▶秋入学を検討している皆さんへのメッセージをお願いします。

秋入学には、多くの魅力があります。例えば、秋は留学生が多く入学する時期でもあり、同じように新しい環境に挑戦する仲間と出会う機会も多いです。一緒に授業を受けたり、日常の中で情報交換をしたりしながら、互いに支え合うことができるのは、とても心強いものです。

研究支援
Research Support

学術会議等研究発表助成

本学大学院に在学し、国内または海外で開催される学術会議及び国際会議において研究成果の発表を行う方を対象に、大学から助成金を交付します。

【助成内容】

国内 (博士課程・修士課程)：学会等の登録料及び往復旅費　上限 50,000 円 / 人・年

海外 (博士課程)：学会等の登録料及び国際航空運賃（往復）の実費　上限 300,000 円 / 人

KCUFS provides post graduate students with travel expenses and registration fees who make presentation at an international conference.

おススメします X.W さん （文化交流専攻言語コース）	この制度はこれまで何度も利用させていただいており、毎回とても助かっています。特に、国際学会に参加する際、登録費や交通費が予想以上に高くなることが多いため、経済的負担を軽減できる支援は非常にありがたいです。さらに、このサポートのおかげで、学会で発表するだけでなく、世界中の研究者と深い交流を持つ貴重な機会を得ることができました。多くの人と意見を交わし、視野を広げることができたのは、何よりの成果でした。もし、これから学会発表に挑戦することを考えているのであれば、この制度を申請することを強くお勧めしたいと思います。学会での経験が研究者としての成長に大きく貢献するはずです。

ティーチング・アシスタント Teaching Assistant

博士課程の学生が将来教員･研究者になるためのトレーニングの機会を提供するため、ティーチング･アシスタント（T.A.）の制度を設けています。

KCUFS offers teaching opportunities to future teachers and researchers.

おススメします J.K さん （文化交流専攻言語コース）	大学院修士課程の言語学の授業で指導助手を担当させていただきました。知っていたはずの基礎言語学にもかかわらず、なぜか初耳の話が予想外に多いという感覚は自分に何かを問いかけているようでした。授業を受ける時の、ただ先生の説明を聞いてそのまま帰ると言う受身的な態度と違って、いつ発言を求められるかわからない、ひょっとしたら自分が完全に飲み込めていない基礎理論を説明することになるかもしれないという多少の緊張感を伴った授業との関わり方で、「知った気になる」状態から脱却し、真の理解に一歩に近づいたように感じました。

在学延長制度 System for Extension of Enrollment Period

博士課程に在籍する者で､学位論文（博士論文）の執筆のために標準修業年限（3 年）を超えて引き続き研究活動を行う者に、在学を認める制度です。

This system allows for an extension of the enrollment period for those students who would like to continue working on their doctoral theses.
If the extension is granted, the tuition fee(s) will be waived.

日本学術振興会 特別研究員の申請支援

特別研究員制度は、我が国の優れた若手研究者に対して、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与え、研究者の養成・確保を図る制度です。

特別研究員は、若手研究家の登竜門といわれ、採択された方の多くが常勤の研究職に就いています。本学では大学院生のみなさんのキャリア獲得に繋がるように、採択に向けた申請支援を行っています。

研究倫理教育（e- ラーニング）

近年、大学を始めとする研究機関における研究倫理及びコンプライアンス意識の向上とその実践が強く求められています。
本学大学院生としてこれから研究活動を行うにあたり、「研究倫理ガイド」を作成し配付しています。
また、研究不正防止の取り組みのため、下記①②を必ず受講することとなっています。
①研究倫理教育（e- ラーニング）の受講
②コンプライアンス教育の受講（日本学術振興会の特別研究員採用者のみ受講対象）

コピーカードの貸与

大学院生の研究活動支援として、在学中にコピーカードを貸与しています。

大学院単位互換制度 Credit Transfer System

神戸大学大学院人文学研究科博士前期課程（修士課程）との間で、学生交流協定に基づき、単位互換授業を開講するとともに、特別聴講生として相互の授業（限度 10 単位）を履修することができます。

Based on the Student Exchange Agreement with the Master's Level Section, Graduate School of Humanities, Kobe University, students are allowed to attend classes at Kobe University as a special auditing student and can obtain a maximum of 10 transfer credits.

研究成果の公表支援
Grant for publishing

研究科論集 Kenkyuka Ronsyu (Journal of Graduate Studies)

「博士課程院生協議会」が主体となり、毎年論集を 1 冊発行しています。印刷費として上限 20 万円を大学から補助しています。

KCUFS provides up to 200,000 yen for doctoral students who publish a journal which is edited independently by doctoral students once a year.

神戸外大論叢 The Journal of Kobe City University of Foreign Studies

教員の研究成果の発表の場として刊行している外大論叢への論文掲載の応募をすることができます。

Doctoral students can apply to journals which are issued as publication opportunities of research results for KCUFS faculty members.

神戸市外国語大学学術情報リポジトリ Repository of Kobe City University of Foreign Studies

本学の教員・院生の作成した教育・研究成果物を保存し、学内外に無償で公開しています。

This is the University's institutional repository which aims to provide open-access to KCUFS research results from a variety of sources, including journals, working papers, scholarly materials, and doctoral dissertations.

職業実践力育成プログラム
BP, Brush up Program for professionalsearch Students

英語教育学専攻は、社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的プログラムとして、文部科学省「職業実践力育成プログラム」（BP, Brush up Program for professional）の認定を受けています。

The Graduate School of English Lauguage Education and Research program has been recognized as a Brush up Program for professional (BP) by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology. A BP Program provides opportunities for professional development for working adults or company workers.

Brush up Program for professional

入学金・授業料 Fees

詳細はこちら▶

入学前後の短期間に、入学金や前期授業料などを支払う必要があります。また、本学には寮がありませんので、住居にかかる費用も含めて十分な経済面での準備をしてください。

入学金及び授業料 Entrance Fee & Tuition（修士課程・博士課程共通）

種　別　Type	金　額　Amount	備　考　Note
入学金 Entrance Fee	423,000 円 (yen)	「神戸市民」・・入学の日（4 月 1 日）の 1 年前から本市に住所を有する者 “Residents of Kobe” -Those who have been continuously residing in Kobe for one year or more before the day of enrollment. 「その子弟」・・神戸市民の配偶者またはその 2 親等内の親族 “Their Children” -A spouse of a Kobe resident or a relative within the second degree of relationship.
	神戸市民またはその子弟 Residents of Kobe or Their Children 297,000 円 (yen)	
授業料 Tuition	前期分 First Semester 267,900 円 (yen)	年　額　yearly amount　535,800 円 (yen)

◆上記の金額は、改定されることがあります。
The fees above are subject to change.

◆本学研究科修士課程から引き続き博士課程に進学する者は、入学金は免除されます。
The entrance fee is exempted for those who go on to the Doctoral Program from the Master's Program of this university.

入学時に納付をお願いしている費用 Other Expenses (arbitrary but encouraged to be a member)

種　別　Type	課程　Program	金　額　Amount	備　考　Note
神戸市外国語大学 楠ヶ丘会（同窓会） 入会金 Kusugaoka-Kai (Alumni Association) Membership Fee	修士 Master	入会金　Entry Fee 30,000 円 (yen)	外大祭、語劇祭等の学生行事の支援、国内外同窓会員相互の連絡、外大図書館への図書資料の寄贈、会誌「楠ヶ丘」の発行等の事業に使用します。 Used for supporting the university festival, drama festival, membership liaison, book donation to KCUFS library, newsletter publishing, etc.
	博士 Doctor		
神戸市外国語大学 伸興会費 Shinko-Kai (Parents Association) Membership Fee	修士 Master	2 年分 For 2 years 40,000 円 (yen)	入会金　Entry Fee　20,000 円 (yen) 会費2年分 Membership Fee for 2 years 20,000 円 (yen) 会費3年分 Membership Fee for 3 years 30,000 円 (yen) 在学生の保証人（保護者等）で組織する会で、学生の課外活動の援助、学生の希望図書の購入、教育上必要な備品の整備や学生主催行事への援助等の事業に使用します。 Used for students' extracurricular events, books, fixtures and fittings necessary for education, supporting events, etc.
	博士 Doctor	3 年分 For 3 years 50,000 円 (yen)	
学生教育研究 災害傷害保険料 Disaster and Accident Insurance for Students	修士 Master	2 年分　For 2 years 1,750 円 (yen)	講義、実習、学校行事、課外活動、通学中や学内での傷害事故・災害に対する補償制度加入のための保険料 Insurance premium to insure students against unexpected accidents during regular curricular activities, school events or extracurricular activities.
	博士 Doctor	3 年分　For 3 years 2,600 円 (yen)	
神戸市外国語大学 消費生活協同組合出資金 KCUFS Co-op membership	修士 Master	出資金 20,000 円 (yen)	出資金については組合員の資格がなくなった際（修了など）に全額返金されます。 The deposit shall be refunded when you graduate.
	博士 Doctor		

◆楠ヶ丘会（同窓会）入会金、伸興会入会金は、本学卒業生で在学時に入会されていた方は必要ありません。　Those who graduated from this university and were members of Kusugaoka-Kai and Shinko-Kai are exempted from the entry fees of both of these organizations.

奨学金 Scholarships

詳細はこちら▶

奨学金制度には、貸与（卒業後返還の必要がある奨学金）と給付（返還の必要がない奨学金）の２種類があります。本学で取り扱っている貸与奨学金には、日本学生支援機構や地方自治体等の奨学金制度があり、給付奨学金には木下記念事業団等があります。

●日本学生支援機構

奨学金種別		貸与月額	利子
第一種奨学金	修士　Master	50,000 円 (yen)、88,000 円 (yen)	無
	博士　Doctor	80,000 円 (yen)、122,000 円 (yen)	
第二種奨学金		50,000 円 (yen)、80,000 円 (yen)、100,000 円 (yen)、130,000 円 (yen)、150,000 円 (yen)	有

●地方自治体奨学金制度

各地方自治体が出身学生を対象に行う、貸与奨学金制度が主流です。詳細は各自出身自治体の教育委員会等に問合せてください。

●荻野スカラシップ（海外留学奨学金）

神戸市外国語大学卒業生の荻野正明（おぎのまさあき）氏より御恵贈いただいた篤志を活用して、チャレンジ精神の旺盛な大学院生・学部生の留学を支援する奨学金制度を設けています。

本学に在学したまま海外へ留学する方を対象として、留学先大学の授業料等最大 250 万円を補助します。詳細は本学ウェブサイトの荻野スカラシップのページを参照してください。

●スティーブ山田スカラシップ（海外留学奨学金）

神戸市外国語大学卒業生の山田進（やまだすすむ）氏（通称：スティーブ山田氏）より御恵贈いただいた篤志を活用して、経済的に困窮しており、かつ難易度の高い留学を目指すチャレンジ精神が旺盛な大学院生・学部生を支援する奨学金制度を設けています。

本学に在学したまま海外へ留学する方のうち、家計収入等の要件を満たす方を対象として、留学先大学の授業料等最大 350 万円を補助します。詳細は本学ウェブサイトのスティーブ山田スカラシップのページを参照してください。

外国人留学生を対象にした奨学金 Scholarships for International Students

入学後に申請ができます。応募にあたっては、原則として大学の推薦が必要となります（ただし、大学から推薦する者は正規生に限ります）。定期的に募集があるものは、春季（3 － 4 月）及び秋季（7 月頃）に学内掲示板などで案内します。

●文部科学省奨学金・大使館推薦

海外に在住する留学希望者を対象とした大使館推薦による文部科学省の奨学金です。詳細は居住国の日本国大使館等に問合せてください。

●その他奨学金

出身国の指定（中国、ベトナム、台湾、あるいはアジア地域）があるものなど、様々な奨学金があります。

There are various scholarships sponsored by corporations, associations and government-related organizations available for international students at KCUFS. Scholarships are available only to full-time international students. Those selected are formally endorsed by KCUFS and their applications are sent to the Scholarship's sponsoring organization. The application periods are: Spring (March, April) and Fall (July). Information is posted on the notice boards on campus. Some of the main scholarships awarded are:

● MEXT Scholarship (Embassy Recommendation) applicants must apply directly at the Japanese Embassy of their country/region of origin before coming to Japan. Refer to your closest Japanese Embassy/Consulate for further information.

● There are other scholarships specified for international students of a certain research field or a specific Nationality/ Region of origin (mainly East Asian and South East Asian countries/regions) .

入学試験 Admission Examination

詳細はこちら▶ 資料請求▶

2026 年度入試日程 Admission Exam Schedule for 2026

修士課程 Master's Program（英語教育学専攻を除く Except English Language Education & Research）

修士課程第1次募集 Master's Program 1st Stage	出願期間　Application Period	2025年8月20日(水)～8月26日(火)必着 due NLT Wed. Aug 20 - Tue. Aug 26, 2025
	入学試験　Admission Exam	2025年10月4日(土) Sat. Oct 4, 2025
	合格発表　Exam Results Announcement	2025年10月10日(金) Fri. Oct 10, 2025
修士課程第2次募集 Master's Program 2nd Stage	出願期間　Application Period	2025年12月10日(水)～12月16日(火)必着 due NLT Wed. Dec 10 - Tue. Dec 16, 2025
	入学試験　Admission Exam	2026年2月15日(日) Sun. Feb 15, 2026
	合格発表　Exam Results Announcement	2026年2月20日(金) Fri. Feb 20, 2026

修士課程(英語教育学専攻)Master's Program (English Language Education and Research)

修士課程英語教育学募集 Master's Program English Language Education and Research	出願期間　Application Period	2026年1月13日(火)～1月19日(月)必着 due NLT Tue. Jan 13 - Mon. Jan 19, 2026
	入学試験　Admission Exam	2026年2月15日(日) Sun. Feb 15, 2026
	合格発表　Exam Results Announcement	2026年2月20日(金) Fri. Feb 20, 2026

博士課程 Doctoral Program

博士課程入試 Doctoral Program	出願期間　Application Period	2025年12月10日(水)～12月16日(火)必着 due NLT Wed. Dec 10 - Tue. Dec 16, 2025
	入学試験　Admission Exam	2026年2月15日(日) Sun. Feb 15, 2026
	合格発表　Exam Results Announcement	2026年2月20日(金) Fri. Feb 20, 2026

研究生・外国人研究生・研修員 Research Students and Graduate Trainees

※第 1 次募集合格者の入学時期は、2025 年 9 月です。

外国人研究生第1次募集 研究生第1次募集 研修員入試第1次募集 Resarch Students Int'l Resarch Students Graduate Trainees 1st Stage	出願期間　Application Period	2025年6月18日(水)～6月24日(火)必着 due NLT Wed. Jun 18 - Tue. Jun 24, 2025
	入学試験　Admission Exam	2025年7月16日(水) Wed. Jul 16, 2025
	合格発表　Exam Results Announcement	2025年7月25日(金) Fri. Jul 25, 2025
	入学時期　Admission	2025年9月 Sep, 2025
外国人研究生第2次募集 研究生第2次募集 研修員入試第2次募集 Resarch Students Int'l Resarch Students Graduate Trainees 2nd Stage	出願期間　Application Period	2026年1月13日(火)～1月19日(月)必着 due NLT Tue. Jan 13, - Mon. Jan 19, 2026
	入学試験　Admission Exam	2026年2月24日(火) Tue. Feb 24, 2026
	合格発表　Exam Results Announcement	2026年3月6日(金) Fri. Mar 6, 2026
	入学時期　Admission	2026年4月 Apr, 2026

◆特別研究学生を希望される方は、別途ご連絡ください。

資格審査 Review of Admission Eligibility

出願資格によっては大学院入試に際し、個別の資格審査が必要な場合があります。詳しくは募集要項をご覧ください。
Some application types might require prequalification assessment. For details of eligibility, please see the Application Guidebook for the Graduate School.

修士課程第1次審査　Master's Program 1st Stage	2025年6月27日(金)～7月3日(木)必着 due NLT Fri. Jun 27 – Thu. Jul 3, 2025
修士課程第2次審査　Master's Program 2nd Stage 博士課程　Doctoral Program	2025年11月7日(金)～11月13日(木)必着 due NLT Fri. Nov 7 – Thu. Nov 13, 2025

修士課程入試内容 Master's Program Examination Contents

専　攻　Major	筆答試験 Written Exam　150 分 (2 hours and 30 minutes)	口述（面接）試験　Interview Exam
英語学専攻 English Studies ロシア語学専攻 Russian Studies 中国語学専攻 Chinese Studies イスパニア語学専攻 Spanish Studies 国際関係学専攻 International Relations 日本アジア言語文化専攻 Japanese and Asian Languages and Cultures	志望する専攻の科目に関して行います。 To be conducted in the subjects of the major you want to be enrolled in. ※詳細は、大学院学生募集要項をご覧ください。 Please see the Application Guidebook for more details.	志望する専攻の科目（領域）等に関して行います。 To be conducted in the field of study you want to be enrolled in.
英語教育学専攻 English Language Education and Research	面接試問（英語の口頭運用能力の評価を含む）の結果と出願書類を総合して行います。 Admission to the program will depend upon two factors: 1) the submitted written materials and 2) an interview to be conducted in both Japanese and English.	

※外国人特別選抜（第１次・第２次）により受験する者は、志望する専攻の領域に関しての試験または、口述試験（面接）において日本語能力を評価します。

＊ Those who take the exam by special selection for foreign nationals (1st & 2nd stage) will be tested on their Japanese ability in an interview or by a written test on the program they want to be enrolled in.

●選抜料 Examination Fee：26,000 円 (yen)

修士課程（英語教育学を除く）社会人特別選抜 Special Selection for Working People

2026 年 3 月 31 日までに 25 歳に達し、かつ 3 年以上の社会人経験を有する方（家事専従者含む）を対象に、社会人特別選抜を実施します。

選抜試験は、一般選抜と原則同じ内容で、一般選抜より面接試験に比重を置いて行います。

博士課程入試内容 Doctoral Program Examination Contents

専　攻　Major	筆答試験 Written Exam　90 分 (1 hours and 30 minutes)	口述（面接）試験　Interview Exam
文化交流専攻 Cross-Cultural Interaction	志望する研究テーマに関する専門知識と分析力について行います。 To be conducted about your expertise and analytical abilities related to the research topic you have chosen.	提出論文および研究計画に関して行います。 To be conducted about the thesis and the research plan you submit.

●選抜料 Examination Fee：26,000 円 (yen)

長期履修学生制度 Registration Period Extension System

職業等を有する等の事情により、研究･学習活動の時間に制約があり、標準修業年限（修士課程２年、博士課程３年）では修了することが難しい場合、一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、学位を修得できる長期履修学生制度を導入しています。

●対象者

入学を許可され､以下の理由により就学時間が制限される者（※留学生（留学ビザ取得（見込）者）は対象外です。）

①職業を有し、就業している

②家事、育児、介護等の事情を有する

③その他やむを得ない事情により標準修業年限で修了することが困難である

●長期履修期間

在学年限の範囲内（修士課程４年、博士課程６年）で、１年単位

※休学の期間は含みません。

●授業料

標準修業年限分の授業料総額に相当する額を、長期履修期間に応じて納付。

（長期履修の授業料年額＝通常の授業料年額×標準修業年限÷長期履修許可年限）

（例）修士課程で、長期履修期間４年の場合

授業料年額＝ 535,800 円× 2 年÷ 4 年＝ 267,900 円

●申請手続き

出願時に申請してください。入学後の申請は受付けません。詳細は募集要項をご覧ください。

大学院入試についての詳細は、本学ホームページ https://www.kobe-cufs.ac.jp 及び「大学院募集要項」で確認してください

施設案内 Facilities

神戸市営地下鉄「学園都市」駅前の信号を渡ると、門扉のない正門が目の前。学内に向かうスロープの両脇には季節の花々が咲き、クスノキ並木の木蔭がやさしい、緑豊かで落ち着いた環境です。そして、視界が開けた先の正面にはシンボリックな研究棟がそびえます。

中庭を挟んで向かい合う学舎と第2学舎、外国語書籍など約41万冊収蔵の図書館等、学修・研究の施設はもちろん、学生会館や部室会館、第2学舎南側のテラスなど、リラックスした学生生活を送ることができる空間も充実しています。

❶図書館

蔵書は約41 万冊あり、外国語大学の図書館にふさわしく、英語・ロシア語・中国語・イスパニア語を中心とする外国語図書が約半数を占めています。

閲覧室と開架書庫には約23万冊の図書をはじめ、外国語雑誌・新聞、さらに電子ジャーナルやオンラインデータベースの利用環境が整い、情報・資料収集の中枢機能を担っています。視聴覚ブースでは、英国・米国・ロシア・中国の衛星放送や、映像教材などを視聴できます。

また、併設のラーニングコモンズは、ディスカッションやプレゼンテーション、パソコンの利用など、多様な利用スタイルに対応できる学修スペースです。

❷研究棟

1階に大学院事務室と国際交流センターがあります。

❸共同研究棟

AV教室　LL（Language Learning）機能やCALL（Computer Assisted Language Learning）機能を備えた教室が利用できます。また、外国語の衛星放送が視聴できます。

応用視聴覚教室　会議用の設備が整い、同時・逐次通訳の練習に利用されています。国際会議の模擬演習やディベートの練習に活用することができる、外国語大学ならではの特色ある教室です。

学生コンピューター室　学生用アカウントでインターネットや電子メールを自由に利用できるパソコンが並んでいます。

4 第2学舎

100人以上の授業を行う大教室と、アクティブラーニング対応の教室があります。1階には、多目的に利用できるスチューデントコモンズ、ボランティアコーナーとキャリアサポートセンターがあります。

5 学舎

おおむね50人までの授業を行う教室があります。本学は少人数制のカリキュラムを実施しています。

6 学生会館

食堂や大学生協のほか、2 階には小ホールや学生会議室・和室・茶室などがあり、様々な課外活動の拠点です。

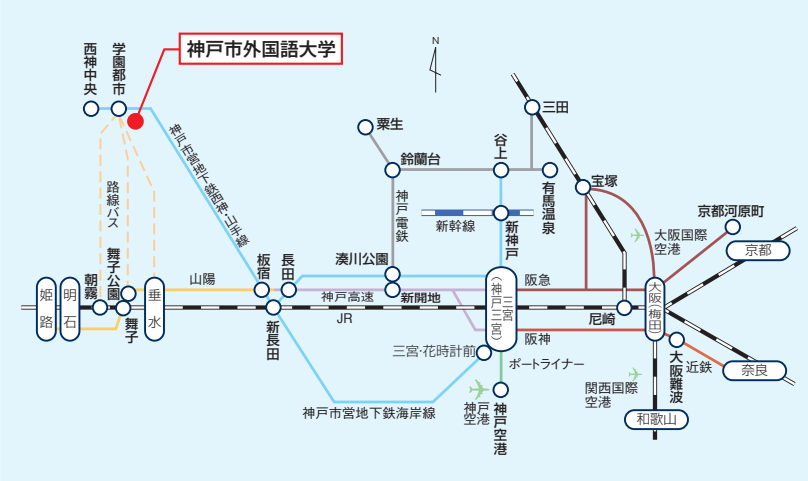
7 第2研究棟

院生研究室があります。

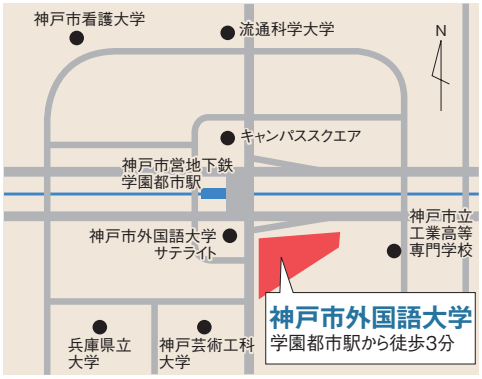
8 神戸市外国語大学サテライト

授業やクラブサークル活動に使います。市民向けの語学講座の開講や貸会議室としても使用しています。

Access / アクセス



学園都市駅周辺MAP



電車で… JR「大阪」から「三ノ宮」まで 新快速で約 **23** 分。
阪急・阪神「大阪梅田」から「神戸三宮」まで特急で約 **31~35** 分。
阪神「大阪難波」から「神戸三宮」まで快速急行で約 **42** 分。
神戸市営地下鉄西神・山手線「三宮」から「学園都市」まで約 **24** 分。

バスで… JR「舞子」から「学園都市」まで路線バスで約 **30** 分。
JR・山陽「垂水」から「学園都市」まで路線バスで約 **30** 分。

新幹線で… 「新神戸」から神戸市営地下鉄西神・山手線「学園都市」まで約 **26** 分。

飛行機で… ポートライナー「神戸空港」から「三宮」まで約 **18** 分。
神戸市営地下鉄西神・山手線「三宮」から「学園都市」まで約 **24** 分。

所要時間はいずれも通学時間帯

お問い合わせ先

神戸市公立大学法人　神戸市外国語大学
〒651-2187 兵庫県神戸市西区学園東町9丁目1
TEL:078-794-8238　FAX:078-794-8160
e-mail: grad_kcufs@office.kobe-cufs.ac.jp

Inquiry

Kobe City University of Foreign Studies
9-1, Gakuen-higashi-machi, Nishi-ku, Kobe, 651-2187
TEL:078-794-8238　FAX:078-794-8160
e-mail: grad_kcufs@office.kobe-cufs.ac.jp

資料請求はこちらから

テレメール(㈱フロムページ)

テレメールで請求すれば3~5日後に届きます。
(発送開始前の請求を除く)

①インターネットから
https://telemail.jp

②資料請求用2次元バーコード▶
(資料請求番号の入力不要)

資料名	資料請求番号	発送開始日
大学院案内	548550	6月上旬
修士課程募集要項	585390	
修士課程募集要項+大学院案内	548920	
修士課程英語教育学専攻募集要項	545390	
修士課程英語教育学専攻募集要項+大学院案内	548940	
博士課程募集要項	545360	
博士課程募集要項+大学院案内	548930	

【料金の支払い方法】 請求は発送開始日以前でも可能です。お届けする資料に同封の料金支払い用紙の支払方法に従い、2週間以内に表示料金をお支払いください。支払方法は「コンビニ支払い」「スマホアプリの請求書支払い(LINE Pay、au PAY)」「携帯キャリア払い」「PayPay」「クレジットカード払い」がご利用になれます。なお、支払い手数料が別途必要です

【お問い合わせ先】 テレメールカスタマーセンター **IP電話**(050-8601-0102)[9:30~18:00]

ⓒ2025 許可なく複製・転載を禁じます